第３次輪島市地域福祉活動計画

（素　案）

地域共生社会の実現をめざして

～お互い様の気持ちで
　支え合い、助け合う地域づくり～

社会福祉法人輪島市社会福祉協議会

輪島市社会福祉協議会マスコット

ふくしあいちゃん

はじめに

社会福祉法人輪島市社会福祉協議会
会長　上畠　忠雄

皆様方には、日頃より輪島市社会福祉協議会に対し、深いご理解とご協力を賜わり、心から感謝申し上げます。

さて、平成29年（2017）の4月から第2次の輪島市地域福祉活動計画がスタートして早や5年が経ちました。

第1次計画では市民の皆さんのご意見を1つ1つ積み重ね､足し算の原理で計画を策定しました。そして、計画の進行段階で計画の実行状況等をその都度定期的に検証しながら進めて来ましたが、計画の中での相談窓口等においてサービスにたどり着けない人の声を聴く取り組みが必ずしも充分とは言えず、多少の課題が残った為、2次計画では地域住民、各種団体、各関係機関、行政等が連携し、立場を変えた足し算の原理で計画を作成致しました。

しかし、近年に於ける私達を取り巻く社会情勢の変化は著しく、この5年間に大きく変化致しました。特に全く予想が出来なかった新型コロナ感染症が全世界で猛威をふるい、私たちが住む輪島市まで感染が広がり、経済をはじめ、人的交流や文化、伝統までも一変するくらいの異常事態となりました。その為、コロナ感染症拡散防止の観点から輪島市社会福祉協議会でも事業や会議そして研修会等のほとんどが規模の縮小や延期、そして中止をせざるを得ない状況となり『誰もが主役になる居場所（地域）づくり』を中心とした、本計画を思うように推進することができませんでした。

期間の途中でも必要な見直しを行っていくことにしておりましたがコロナ感染症の拡大で先が見通せない中、最終年を迎え、第3期の計画策定作業にかかることになりました。

第2次計画が推進停止状態となった中、第3次計画ではコロナ感染症がゼロになるまで待っていては計画の策定は出来ない為、アフターコロナ（コロナ後）では無く、『ウィズコロナ』すなわちコロナとどう向き合って共生して行くかを念頭に置き、策定検討委員会・策定委員会・ワーキング委員会の3つの委員会を中心とした第3次の輪島市地域福祉活動計画委員会を組織し策定作業を進めました。

作業では福祉関係の各種団体等に広くアンケート調査のうえ、その結果を踏まえて、コロナ禍の中でどの様なことが必要か等見極めながら作業を進め今般、第3次の輪島市福祉活動計画を策定することが出来ました。

今後はこの計画を基にさらなる輪島市の社会福祉の充実の為、役職員一丸となって計画の推進を図っていく所存ですので、皆様方の変わらないご指導、ご鞭撻を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。

結びに本計画策定にあたりいろいろとご協力いただきました関係者の皆様方に心から感謝申し上げますと共に、益々のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

令和4年3月

目次

第１章　計画の策定にあたって
１　計画趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２　地域福祉活動計画とは
３　計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

第２章　これまでの取り組みを振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
１　第２次輪島市地域福祉活動計画評価について・・・・・・・・・・・・・・４
住民の取り組みについてアンケート結果
２　取り組みの評価と見えてきた課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

第３章　輪島市の現状
（１）人口と世帯数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
（２）人口と出生数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
（３）障害児者の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
（４）介護の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
（５）災害時の支援について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
（６）社会福祉協議会会費の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４

第４章　第３次地域福祉活動計画の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・３５
１　基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
２　基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
３　行動目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
４　体系図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６

資　料
・輪島市地域福祉活動計画委員会設置要綱・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
・輪島市地域福祉活動計画委員会名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９
・第３次地域福祉活動計画策定の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０

第１章　計画の策定にあたって

１　計画趣旨

輪島市社会福祉協議会では平成 24 年度から「人とつながる」ことの大切さを認識し、またその「しくみづくり」を地域で進めていくために『みんなが自分らしく暮らせるまち～輪のようにずっとつながるまちづくり～』を基本理念として第 1 次地域福祉活動計画（以下活動計画）をスタートさせ地域福祉を推進してきました。

平成 29 年度からスタートした第 2 次活動計画では第 1 次活動計画での評価、見直しのもと、「地域の中で困っている」と声を出せない人、相談窓口にたどり着けない人への対応を丁寧にするため、地域の関係機関とつながり、声を拾い、解決に向けて時には関わる人達と寄り添う場づくりを進めていくために『～誰もが主役になる居場所（地域）づくり～』を基本理念としました。

取り組みでは地域の困り事に関心を持ち気づく人を育て、関係機関でつながるしくみづくりを強化してきましたが、近年、新型コロナウィルス感染拡大により人と人の距離をとらなければならない等、これまでのような関わり方が難しく居場所づくりが実施困難な状況もありました。

また、新型コロナウィルス感染拡大が社会状況の変化に大きな影響を与えたことにより、これまで自分の力で自分らしく暮らしていた人達の生活の継続を阻み、かつ困り事（問題）を多様化、複雑化させる状況も生じております。

思うように出かけ集うことができない中、いかに地域で困っている人とつながり、地域の人達に関わってもらい、我が事のようにとらえ、支え合っていくか、第 3 次活動計画では新しい生活様式のもと、地域共生社会の実現をめざしすべての人が制度や分野の壁を越えて「支え手」「受け手」という関係をも超えて地域住民が一体となり「我が事」として助け合う地域づくりへの取り組みを進めてまいります。

２　地域福祉活動計画とは

社会福祉協議会が呼びかけて、民生委員児童委員、地域福祉活動を行う福祉団体、ボランティア等が住民の協力、連携のもとで策定する民間の活動、行動計画です。

家を造るときに設計図が必要なように、福祉のまちづくりには『地域福祉活動計画』という行動計画が必要となります。

輪島市が令和 3 年度に策定する「第 3 次輪島市地域福祉計画」での取り組みと連動するよう第 3 次地域福祉活動計画を策定しました。

３　計画の期間

第１次活動計画

平成 24 年度～平成 28 年度

みんながじぶんらしく暮らせるまち
～輪のようにずっとつながるまちづくり～

第２次活動計画

平成 29 年度～令和 3 年度

みんながじぶんらしく暮らせるまち
～誰もが主役になる居場所（地域）づくり～

第３次活動計画

令和 4 年度～令和 8 年度

地域共生社会の実現をめざして
～お互い様の気持ちで
支え合い、助け合う地域づくり～

令和 4 年度からの 5 年間は
地域共生社会の実現をめざし
年齢、性別、障害のあるなし関係なく、
お互い様の気持ちで支え合う、助け合う
地域づくりにみんなで協力して取り組みます。

第２章　これまでの取り組みを振り返って

第 2 次地域福祉活動計画の評価については、『住民の取り組み』と『社会福祉協議会の取り組み』に分けて作業を行いました。

『住民の取り組み』では掲げられた住民の 24 個の取り組みについて住民の立場でどの程度達成できたか、アンケートにより把握しました。

『社会福祉協議会の取り組み』については社会福祉協議会内の各課で基本計画や取り組むべき項目に関連した事業の実施状況とその成果について振り返りました。

その後、双方の結果から総合的に第 2 次活動計画を評価し見えてきた課題を抽出しました。

第 2 次地域福祉活動計画（平成 29 年～令和 3 年）

基本理念	基本目標	基本計画	住民の取り組み	社協の取り組み
みんなが自分らしく暮らせるまち　～誰もが主役になる居場所（地域）づくり～	つながる人づくり	困っていることやつぶやきをひろおう	P6　地域行事や福祉団体等の活動に積極的に参加しましょう	中・高生を対象に食に関心をもてるような食育指導を推進します
			P6　食に関心を持ちましょう	小中学生を対象に長期休暇を利用して学習支援します
			P7　ひとりで悩まず身近な人に相談しましょう	困りごとを抱える人などを包括・継続的に支える相談体制の充実を図ります
			P7　家庭内や近所で挨拶や声かけをし、周りの人に関心を持ちましょう	食を通して多世代が交流し、子どもの声を聴ける安心できる居場所をつくります
			P8　多様な年代の人が交流できる機会や場所をつくりましょう	地域の集いの場やサロンに出向き、住民の声を聴きます
			P8　自分や周りの人に必要な情報を収集しましょう	見守りの必要な人を地域で支えるしくみをつくります（地域マップづくりなど）
		地域のことを考える人を育てよう	P9　隣近所で助けてと言える関係を作りましょう	高齢者や障害者の家族の生活を支援する人材を育てます
			P9　自分だけでなく周りの人にも関心を寄せましょう	福祉に対する理解を深める為に福祉講座を開催します
			P10　地域の防災・防犯について興味関心を持ち、日頃から備え訓練に参加しましょう	防災訓練や防災教育の取り組みを推進します
			P10　防災について家族や地域で話し合う機会を増やしましょう	ボランティア養成と地域福祉活動の人材育成を推進します
			P11　身近な人に輪島の伝統文化や食を伝えましょう	誰もが生活しやすいしくみの普及啓発をします（ユニバーサルデザインとバリアフリー）
			P11　福祉に興味関心を持ち、福祉講座や研修会に積極的に参加しましょう	輪島の伝統文化や食を取り入れた行事を開催します
	つながるしくみづくり	地域の活動と人をつなげよう	P12　ボランティアや地域活動に興味・関心を持ち、積極的に参加しましょう	地域のニーズや困り事を関係機関やボランティア活動につなげます
			P12　企業として、地域に貢献する活動を行ってみましょう	福祉情報の提供に努め、必要な情報が届くよう工夫します
			P13　困ってそうな人をみつけたら、その人の代わりに伝えましょう	相談を受ける体制の整備
			P13　ボランティアセンターを活用しましょう	ボランティア講座を開催します
			P14　地域の行事に近所で声かけをして参加しましょう	ボランティアセンター利用促進を図ります
			P14　得意なことを見つけ役立てましょう	様々な人を巻き込んだボランティアフェスティバルを開催します
		生きがいを探そう	P15　自ら健康づくりをしましょう	地域でのイベント行事への参加を推進し活動や機会の充実を図ります
			P15　新しいことにチャレンジしましょう	健康や生きがいづくりの講座を開催し、情報を発信します
			P16　趣味や楽しみを持ち続けましょう	中高生の活動の場づくりを推進します
			P16　地域の行事に参加しましょう	健康づくりの促進の場をつくります
			P17　ボランティア活動に参加しましょう	多様な世代が交流できる機会、新たな出会いや学びの場をつくります
			P17　話し相手を見つけましょう	趣味・特技を活かせるサロンづくりを推進します

1　第２次輪島市地域福祉活動計画評価について

≪住民の取り組み≫についてアンケート結果

アンケートの目的

社会福祉法人輪島市社会福祉協議会では地域福祉活動を行う福祉団体、ボランティア等住民の協力、連携のもと地域福祉活動計画を策定します。

地域福祉活動計画は地域共生社会の実現を目指す民間の活動、行動計画です。

令和4年度から始まる第3次地域福祉活動計画の策定にあたり、平成29年度から令和3年度の5年間で取り組んだ第2次地域福祉活動計画について住民の取り組みを振り返るとともに新たな地域課題の把握のために実施しました。

アンケートの実施方法

・調査対象者　　市内の区長、福祉関係団体、社協サービス利用者等にご協力いただきました。

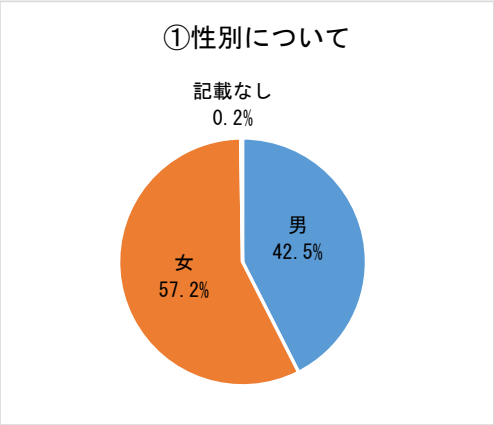
・調査機関　　令和3年8月2日（月）～10月29日（金）

・回答数　　802件

1 あなたについておたずねします　　（回答者の状況について）

単位：人

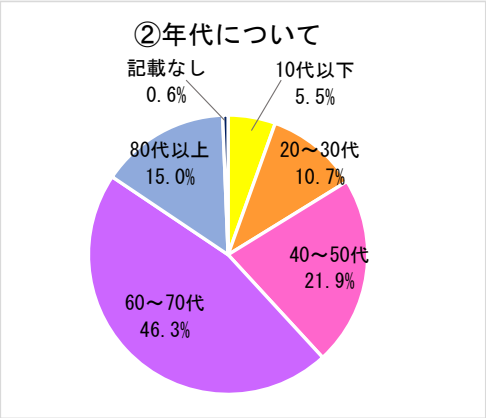
①性別	選択	人数
	男	341
	女	459
	記載なし	2
	合計	802



・回答者の約6割は女性でした。

単位：人

②年代	選択	人数
	10代以下	44
	20～30代	86
	40～50代	176
	60～70代	371
	80代以上	120
	記載なし	5
	合計	802

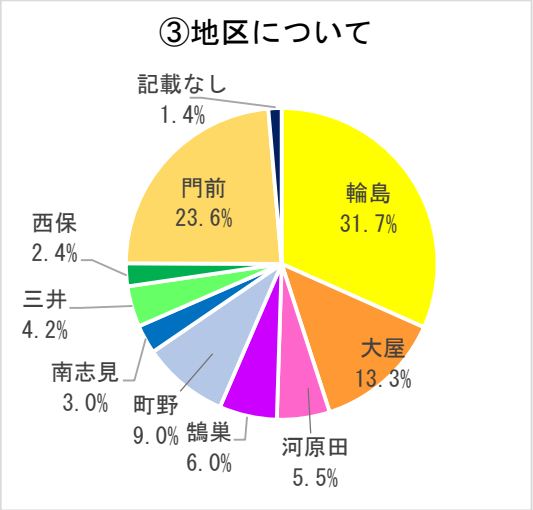


・60～70代の人の回答が一番多く46.3%ありました。

・60代以上の人の回答が全体の6割を占めています。

単位：人

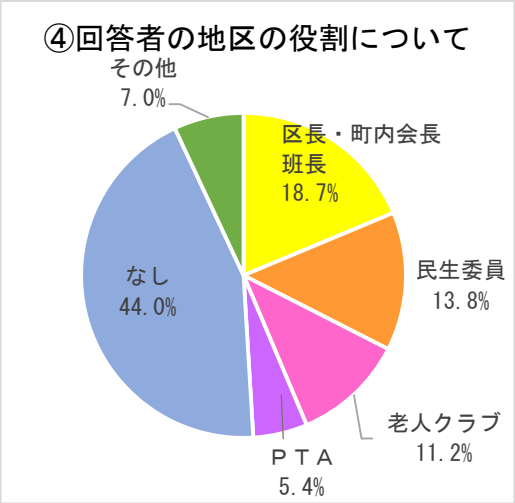
③地区	選択	人数
	輪島	254
	大屋	107
	河原田	44
	鵠巣	48
	町野	72
	南志見	24
	三井	34
	西保	19
	門前	189
	記載なし	11
	合計	802



・回答者の地域では各地区の人口比と大きな偏りなく回答を得られました。

単位：人

④地域の役割 ※複数回答有	選択	人数
	区長・町内会長 班長	156
	民生委員	115
	老人クラブ	93
	ＰＴＡ	45
	なし	367
	その他	58
	合計	834



・地域での役割がないという人が44.0%いました。

単位：人

その他内訳		
	消防団員	3
	女性消防	1
	学校評議員	1
	クラブ指導	1
	公民館	1
	生産組合長	1
	地域福祉推進員	2
	婦人会	3
	食生活改善推進員	6
	子ども会	1
	ボランティア	19
	記載なし	12
	合計	58

・その他の内訳をみると、ボランティアをしているという人は19人（30%）でした。

2 「住民がする取組」についてどの程度みなさんご自身が取り組まれたかおたずねします。

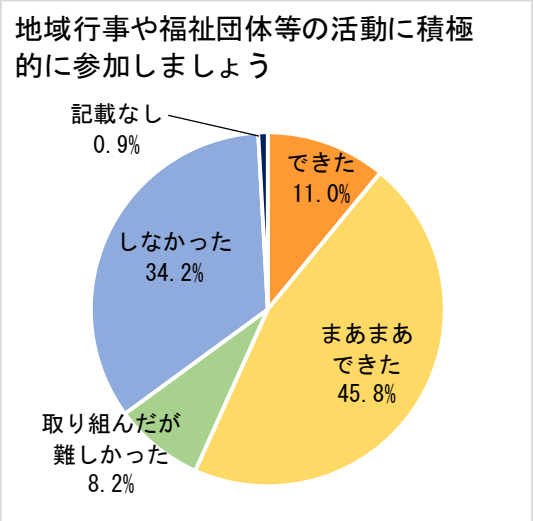
基本目標　　つながる人づくり

基本計画　　困っていることやつぶやきをひろおう

1）地域の困っていることやつぶやきを拾うことについて

①地域行事や福祉団体等の活動に積極的に参加しましょう

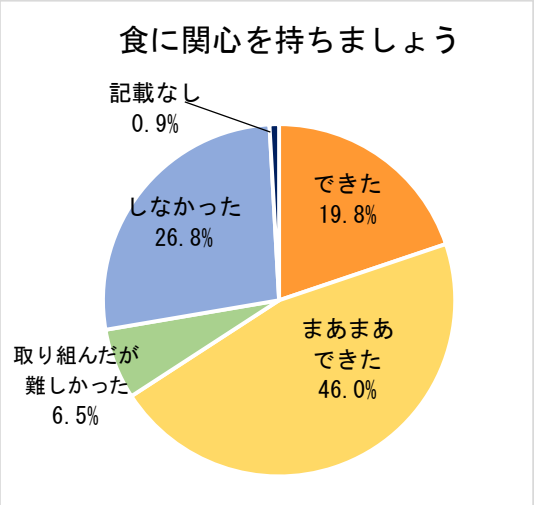
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	88	367	66	274	7	802



●この1～2年、新型コロナウィルスのため行事参加が難しかったという意見もありましたが第2次計画の5年間をみると「できた」「まあまあできた」と回答した人が56.8%おり、半数以上の人が何らかの行事に参加していることがわかりました。

②食に関心を持ちましょう

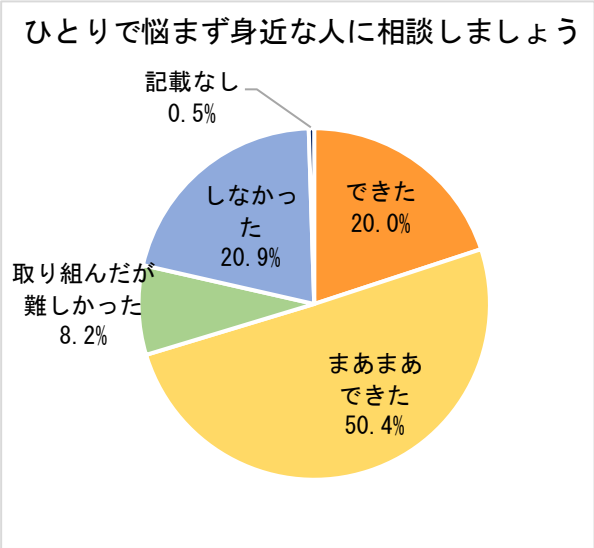
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	159	369	52	215	7	802



●65.8%の人が食に関心を持っていることがわかりました。

③ひとりで悩まず身近な人に相談しましょう

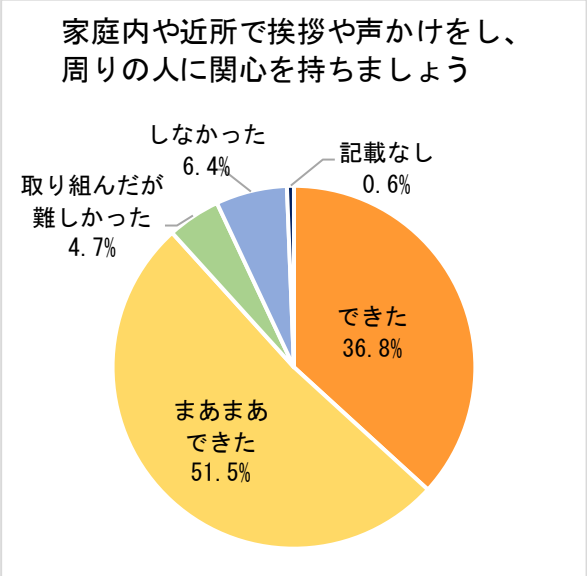
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	160	404	66	168	4	802



●「できた」「まあまあできた」を合わせると70.4%の人が相談できる人がいます。
●29.1%の人は身近に相談できる人がいないと回答しています。

④家庭内や近所で挨拶や声かけをし、周りの人に関心を持ちましょう

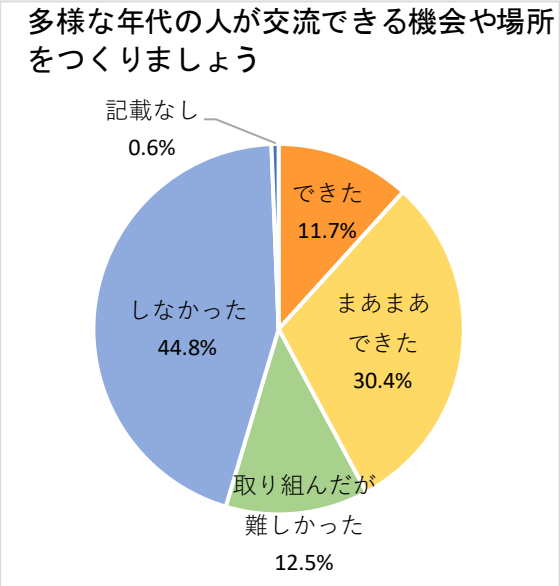
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	295	413	38	51	5	802



●88.3%の人が「できた」「まあまあできた」と回答しています。
●多くの人が日頃から周囲との関係に心配りしながら、また、周りに変わったことがないか注意していると答えています。

⑤多様な年代の人が交流できる機会や場所をつくりましょう

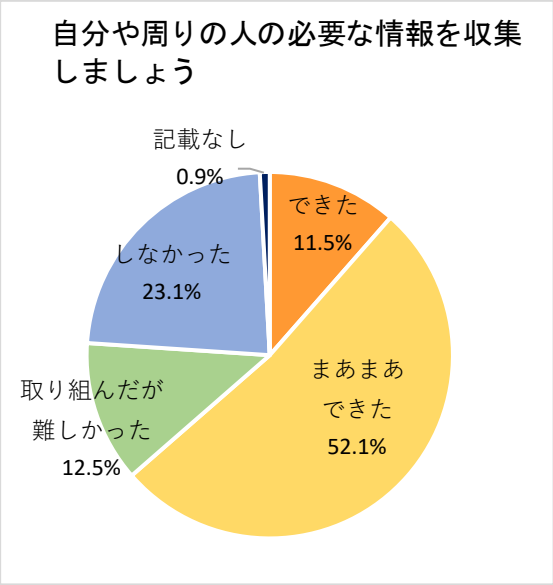
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	94	244	100	359	5	802



●この1～2年の新型コロナウィルス感染のイメージが強く、交流についてできなかったと回答する人が多かった。
●個人の力で作るのは難しいという声があった。

⑥自分や周りの人の必要な情報を収集しましょう

選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	92	418	100	185	7	802



●6割の人が「できた」「まあまあできた」と回答した。

・「つながる人づくり、困っていることやつぶやきをひろおう」については6割の人が「できた」「まあまあできた」と回答している。

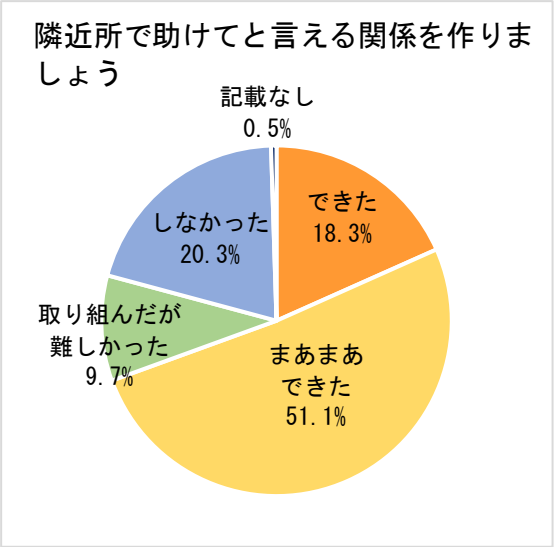
基本目標　　つながる人づくり

基本計画　　地域のことを考える人を育てよう

2）地域のことを考えようとしたかについて

①隣近所で助けてと言える関係を作りましょう

選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	147	410	78	163	4	802

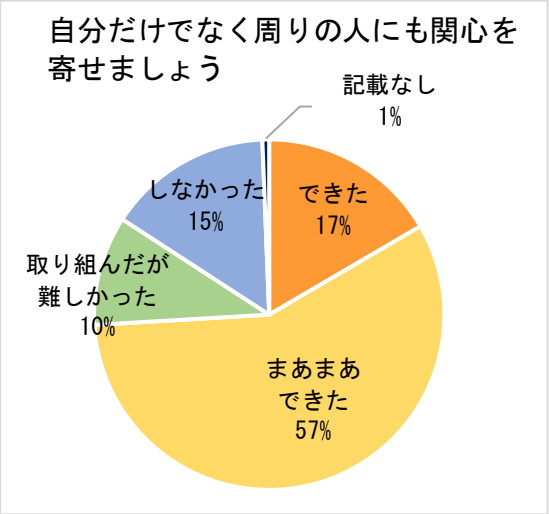


●69.4%の人が「できた」「まあまあできた」と回答し、概ね隣近所と良い関係で助け合いができる関係であることがわかりました。

●30%の人は隣近所と助け合える関係をつくることが難しかった、しなかったと回答しています。

②自分だけでなく周りの人にも関心を寄せましょう

選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	133	461	81	122	5	802

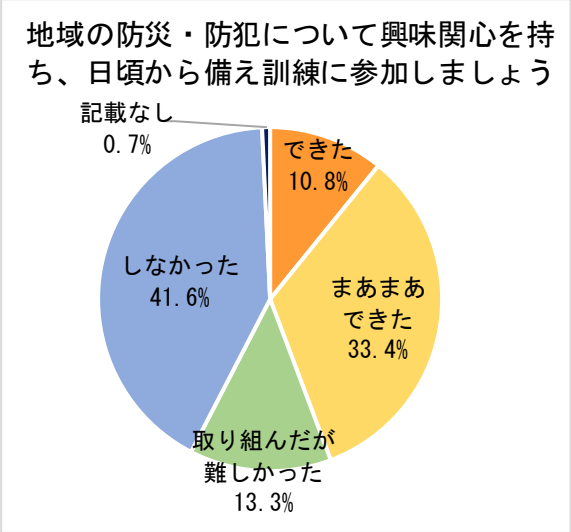


●周りの人へ関心を持っている人は74%で隣近所に助けてと言える人は69.4%（上記）より少し多い割合でした。

●助けてと言える関係ではなくても周囲に関心を持ち見守り等はしている人がいるとわかります。

③地域の防災・防犯について興味関心を持ち、日頃から備え訓練に参加しましょう

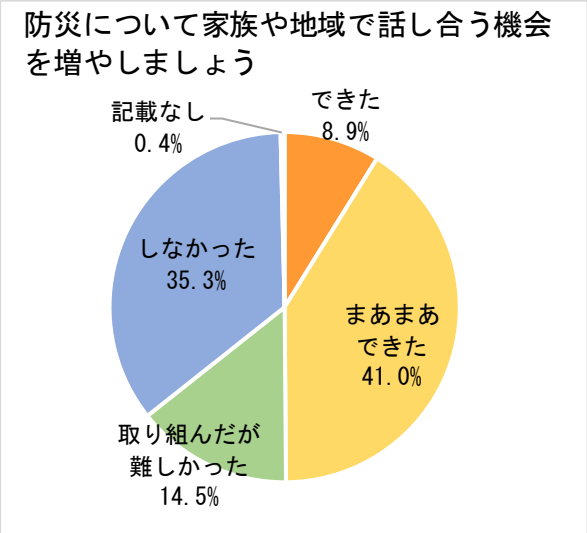
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	87	268	107	334	6	802



●日頃、地域行事に参加している人は56.8%（P6参照）いますが防災への関心や訓練への参加となると減少して「できた」「まあまあできた」と回答した人が」44.2%となります。

④防災について家族や地域で話し合う機会を増やしましょう

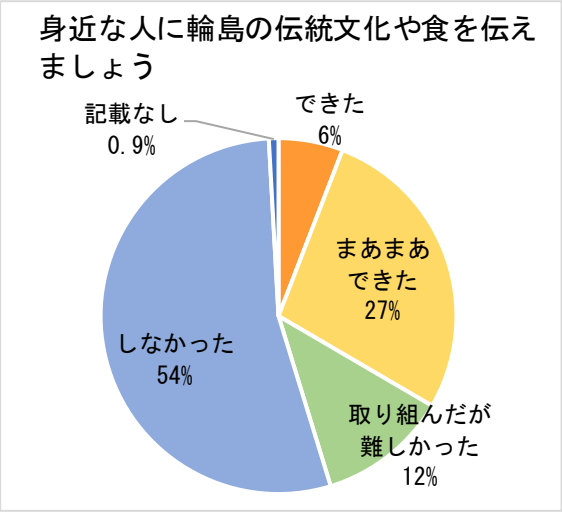
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	71	329	116	283	3	802



●防災について周りの人と話し合うという人は「できた」「まあまあできた」という人を合わせて49.9%でした。
●訓練等に参加はしていないが防災について周りの人と話をしている人はいるようです。

⑤身近な人に輪島の伝統文化や食を伝えましょう

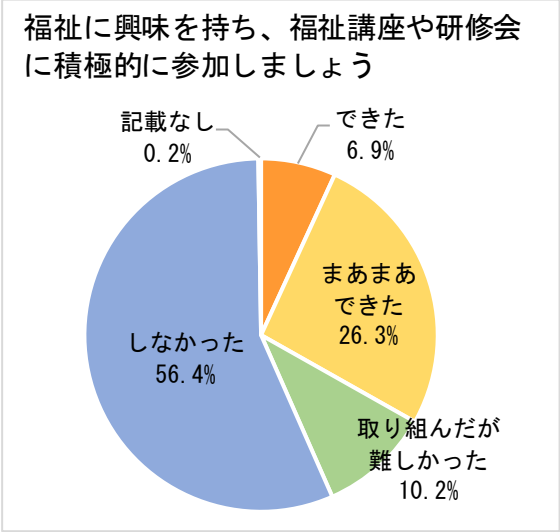
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	47	221	95	432	7	802



●日頃の生活の中で伝統文化を意識し伝承に取り組む人は33%でした。

⑥福祉に興味関心を持ち、福祉講座や研修会に積極的に参加しましょう

選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	55	211	82	452	2	802



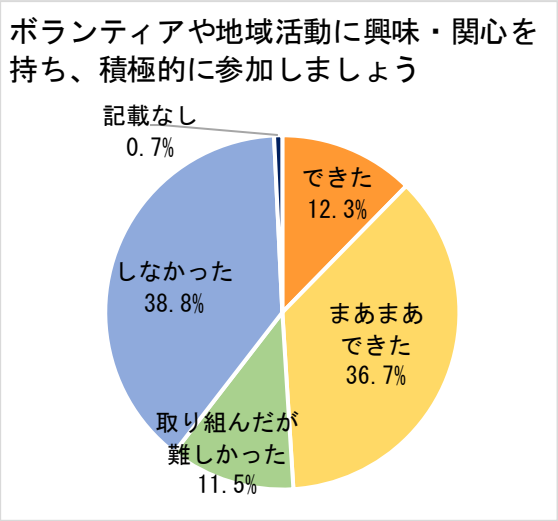
●福祉に関心を持ち研修会に参加する人は、防災に取り組む人より減少して33.2%でした。

基本目標	つながるしくみづくり
基本計画	地域の活動と人をつなげよう

3）地域の活動と人をつなげることについて

①ボランティアや地域活動に興味・関心を持ち、積極的に参加しましょう

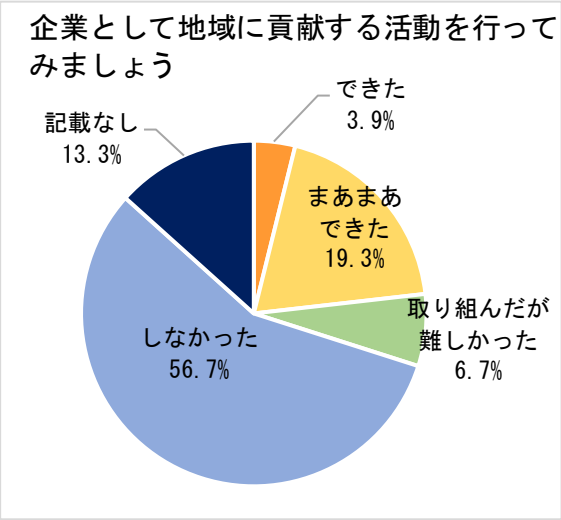
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	99	294	92	311	6	802



●「できた」「まあまあできた」と回答した人が49%いました。

②企業として、地域に貢献する活動を行ってみましょう

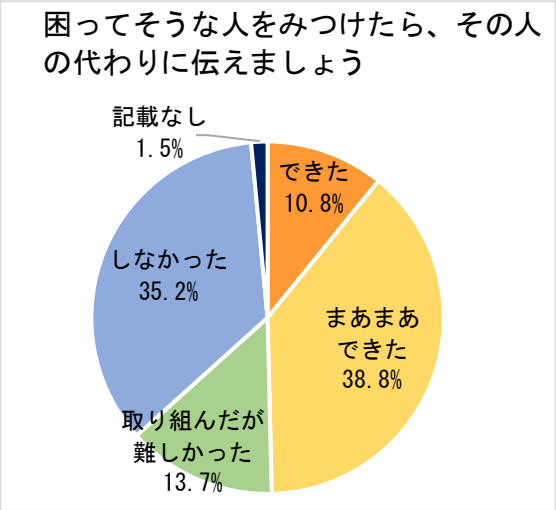
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	31	155	54	455	107	802



●企業として地域貢献活動をした人が2割ほどいました。

③困ってそうな人をみつけたら、その人の代わりに伝えましょう

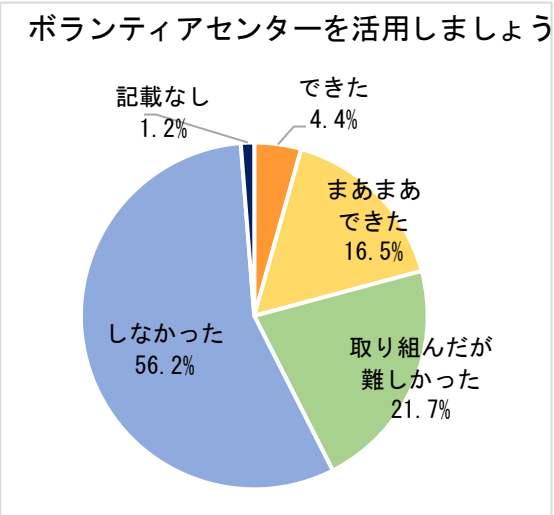
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	87	311	110	282	12	802



●隣近所で気にかけ合うことはできても、そのあと一歩進んだ支援は難しいと思われます。
●困っていそうな人の代わりに相談できる人は「できた」「まあまあできた」を合わせて49.6%でした。

④ボランティアセンターを活用しましょう

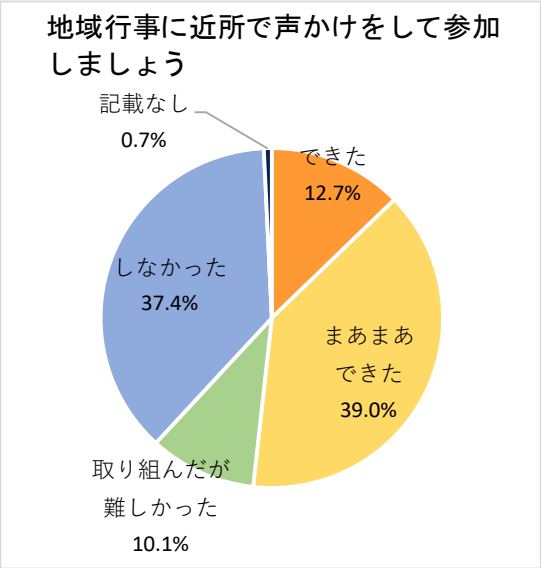
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	35	132	174	451	10	802



●ボランティアセンターを活用した人が20.9%でした。
●利用率は低いが、取り組んだが難しかったを入れれば42.6%の人がボランティアセンターの存在を知っていると思われます。
●活用を促進するために今後はどのような機能がセンターにあるか、もっと広報が必要であると思われます。

⑤地域の行事に近所で声かけをして参加しましょう

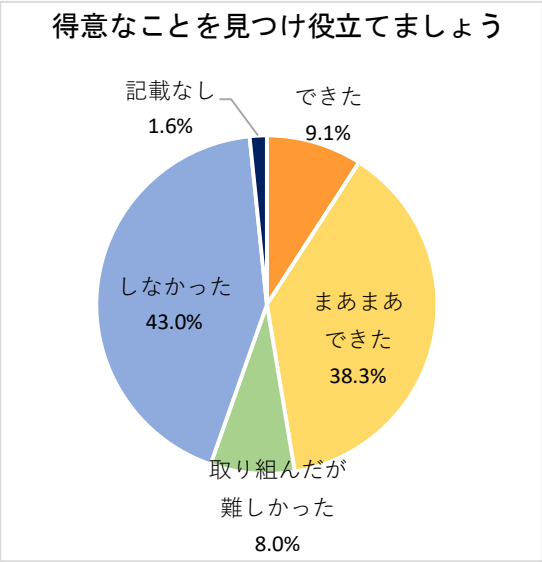
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	102	313	81	300	6	802



●近所で声をかけ合って地域の行事に参加する人が5割強いた。

⑥得意なことを見つけ役立てましょう

選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	73	307	64	345	13	802



●得意なことを役立てたという人が5割近くいた。

※いつ、どのような所で役立てたかあいまいな質問。役立てた所が地域と言及されていない。

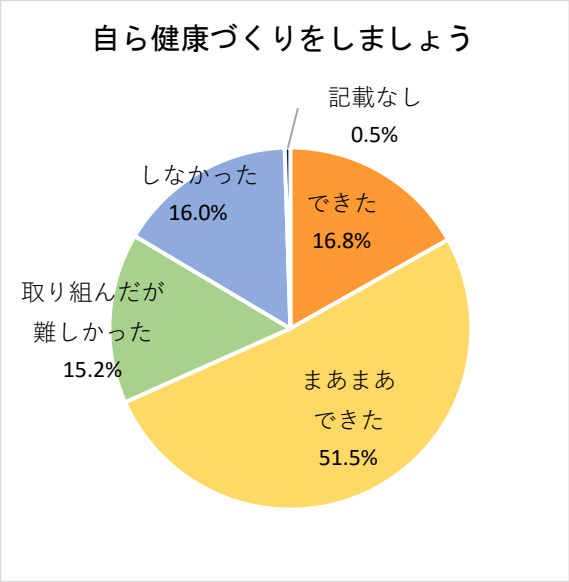
・ボランティアセンターの活用が少ないことから、住民の皆さんに活用してもらえるような情報を提供しているか考えていかなければならないことがわかりました。
・近所との関係が良好な人が多く、地域の行事、活動に声をかけ合い参加していることがわかりました。
・行事への参加を呼びかける時は「隣近所誘い合って」と働きかけることが有効であることがわかりました。

基本目標	つながるしくみづくり
基本計画	生きがいを探そう

４）生きがいを探すことについて

①自ら健康づくりをしましょう

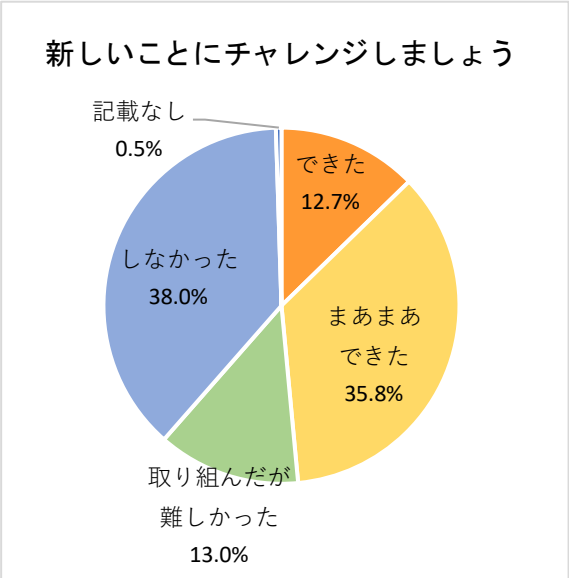
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	135	413	122	128	4	802



●健康づくりについては7割近くの人が取り組んだ。食への関心と同程度の回答があった。

②新しいことにチャレンジしましょう

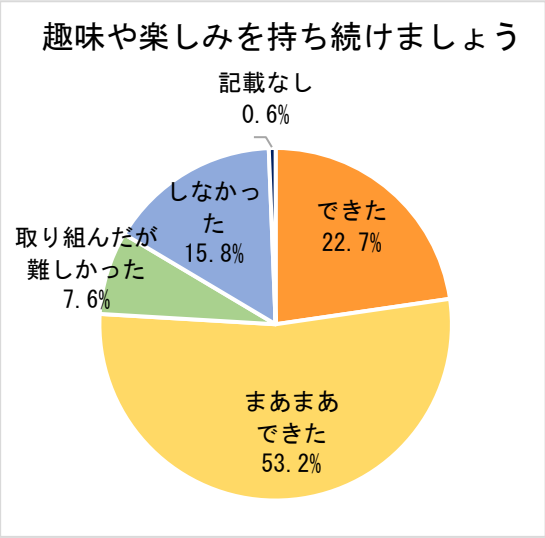
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	102	287	104	305	4	802



●「できた」「まあまあできた」を合わせて約半数が取り組んだ。「難しかった」「しなかった」という人も半数いる。

③趣味や楽しみを持ち続けましょう

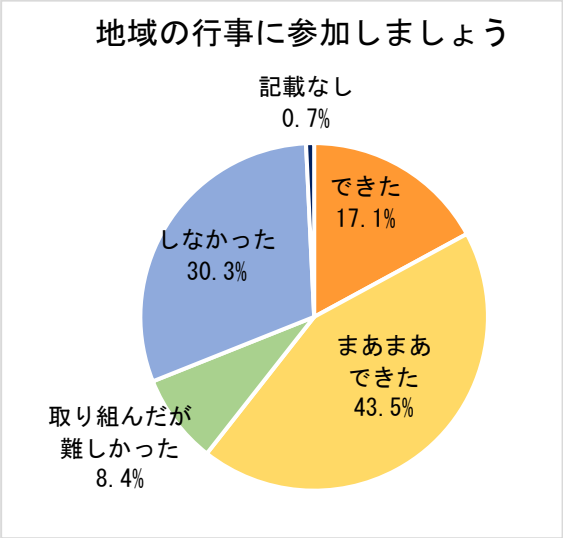
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	182	427	61	127	5	802



●趣味や楽しみがあるというが「できた」「まあまあできた」を合わせて75.9%いました。

④地域の行事に参加しましょう

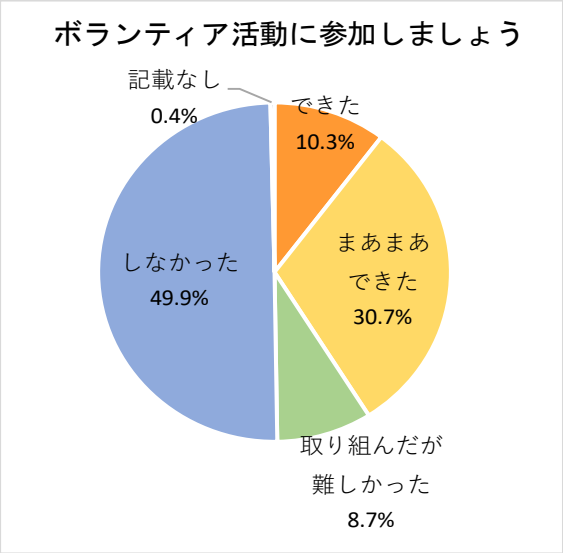
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	137	349	67	243	6	802



●地域の行事に参加が「できた」「まあまあできた」と回答した人が60.6%いました。

⑤ボランティア活動に参加しましょう

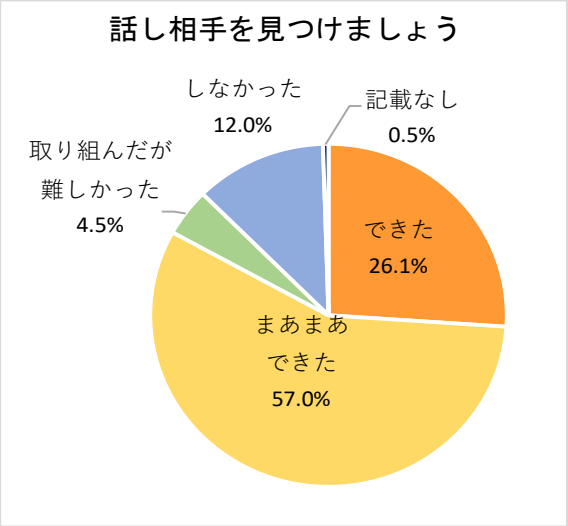
選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	83	246	70	400	3	802



●地域の行事に6割の人が参加したがボランティア活動になると4割の人が参加と減っている。

⑥話し相手を見つけましょう

選択	できた	まあまあできた	取り組んだが難しかった	しなかった	記載なし	計
人数	209	457	36	96	4	802



●一人で悩まずに身近な人に相談したという人が7割いたが話し相手についてはもっと多く8割強の人がいると回答している。話し相手がいない人が少数だがいた。
●悩みを相談する相手は単に会話をする「話し相手」とは違うということを回答者は認識して答えていると思われる。

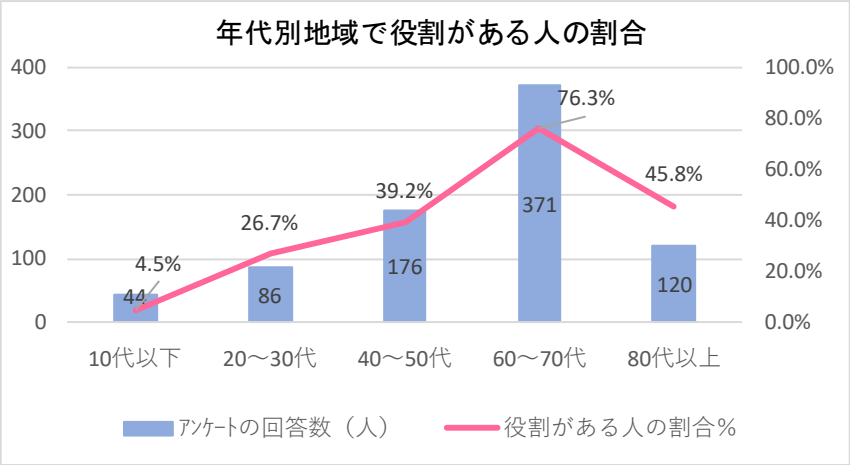
・6割の人が地域行事に参加しているが、ボランティア活動は4割の人が参加したと回答し地域行事の参加より2割少ない。どのようなボランティアがあるか情報提供することから参加を呼びかけていく必要がある。
・話し相手がいるは8割いたが、見つけられなかったという人は10代以下で5人、20～30代で13人、40～50代で27人、60～70代で41人、80代以上で9人で全体の12%が話し相手がいないという結果だった。「難しかった」という回答を入れると全体の16.5%となる。高齢者だけでなく若い世代でも話し相手がいないという人がいる。

年代別の地域参加状況についてアンケートから見えてきたこと

①年代別地域で役割がある人の人数と割合（%）

年代	ｱﾝｹｰﾄの回答数（人）	その内役割がある人（人）	役割がある人の割合%
10代以下	44	2	4.5%
20～30代	86	23	26.7%
40～50代	176	69	39.2%
60～70代	371	283	76.3%
80代以上	120	55	45.8%

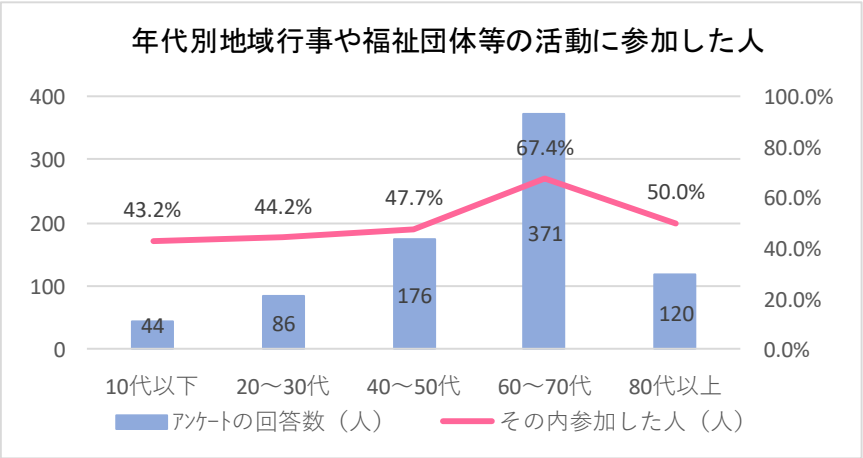
●地域で役割を持つ人が10代→20～30代→40～50代と年代が上がっていくごとに増えて60～70代では76.3%が地域で役割を持っています。
●80代以上では地域の役割から引退して減少しているようですが、それでも5割近くが役割を持ち続けています。地域の担い手が高齢化していることがわかります。



②年代別地域行事や福祉団体等の活動に参加した人の人数と割合（%）

年代	ｱﾝｹｰﾄの回答数（人）	その内参加した人（人）	参加した人の割合%
10代以下	44	19	43.2%
20～30代	86	38	44.2%
40～50代	176	84	47.7%
60～70代	371	250	67.4%
80代以上	120	60	50.0%

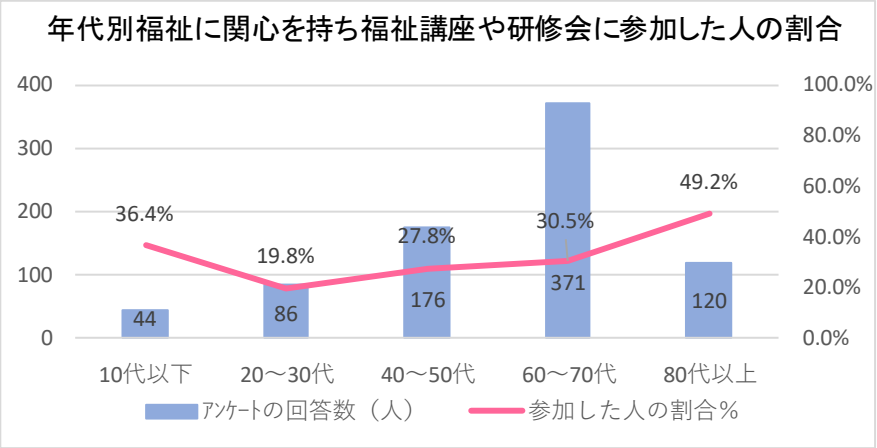
●どの年代も5割近くは地域の行事に参加していることがわかりました。
●特に60～70代では地域の役割を持っている割合が高いことから、行事に積極的に参加しているものと考えられます。



③年代別福祉に関心を持ち福祉講座や研修会に参加した人の割合（%）

年代	ｱﾝｹｰﾄの回答数（人）	その内参加した人（人）	参加した人の割合%
10代以下	44	16	36.4%
20～30代	86	17	19.8%
40～50代	176	49	27.8%
60～70代	371	113	30.5%
80代以上	120	59	49.2%

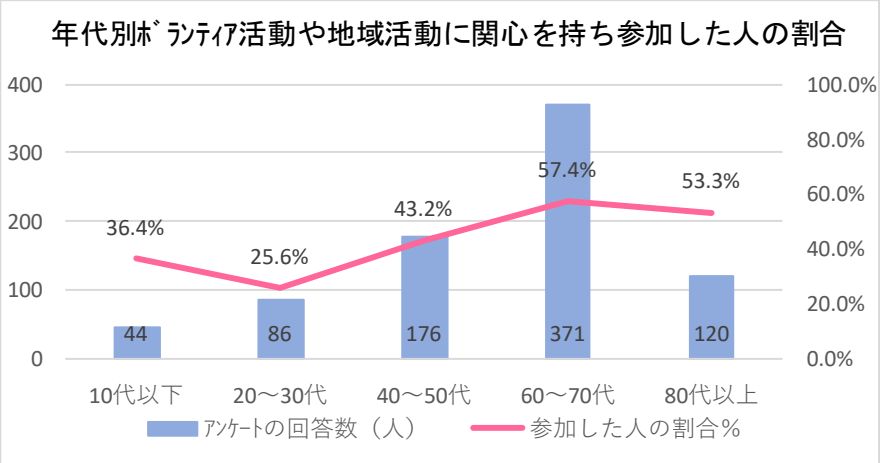
●地域行事への参加と比べ福祉関係の講座となると参加する割合が下がります。
●80代以上では時間に余裕がある為か、福祉関係の講座への参加率は高いようです。若い世代に今後地域の担い手として活動してもらう為にも福祉や地域の支え合い等について関心をもってもらわなければならないと思います。
●どうしたら関心を持って参加してもらえるか考えていく必要があります。



④年代別ボランティア活動や地域活動に関心を持ち参加した人の割合（%）

年代	ｱﾝｹｰﾄの回答数（人）	その内参加した人（人）	参加した人の割合%
10代以下	44	16	36.4%
20～30代	86	22	25.6%
40～50代	176	76	43.2%
60～70代	371	213	57.4%
80代以上	120	64	53.3%

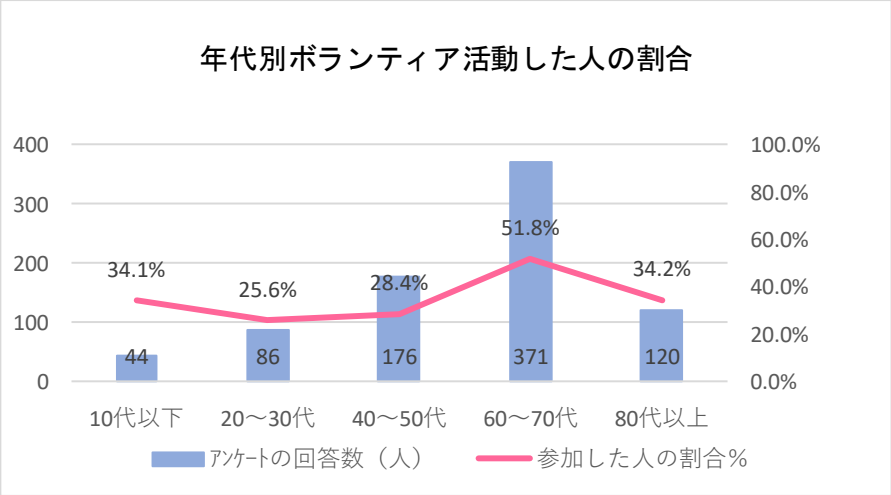
●ボランティア活動と地域での町内会活動等の参加を見たところ、ともに40～50代から参加する人が増えていることがわかります。地域の担い手として少しずつ準備、引継ぎがされていると思われます。また、80代以上でも5割以上が活動しています。元気な間は地域で活動していることがわかります。地域で活動するためには健康であることが大切です。



⑤年代別ボランティア活動をした人の割合（%）

年代	ｱﾝｹｰﾄの回答数（人）	その内参加した人（人）	参加した人の割合%
10代以下	44	15	34.1%
20～30代	86	22	25.6%
40～50代	176	50	28.4%
60～70代	371	192	51.8%
80代以上	120	49	34.2%

●年代別のボランティア活動状況をみると、地域での役割を持つ割合の多い60～70代の半数がボランティア活動をしています。
●10代以下では3割を超えていますが、学校の授業やクラブ活動の取り組みで参加していると思われます。
●80代以上でも3割を超えてボランティア活動をしている人がいます。健康であれば高齢であっても支える側として活動ができます。



２　取り組みの評価と見えてきた課題

≪住民の取り組みアンケートから≫

〇地域の担い手の高齢化が進んでいます。できる人に仕事が集中しています。
〇高齢であっても地域で活動する人がいます。
〇地域で相談相手、話し相手がいない人がいます。
〇地域で気軽に立ち寄れる場所、集まることができる居場所がほしいという声がありました。
〇町内会等の地域の行事には参加しているが、次の段階、防災関係、福祉関係となってくるとだんだん参加が減ってきます。
〇周りを気にかけている人は多いですが、気になったら支えるという次の行動に移している人は気にかけている人より少なくなっています。困っていることに気づいても一歩踏み込むことは難しいようです。
〇行事などには隣近所で声をかけ合い参加しています。一人では難しくても仲間がいれば行動に移すことができる人が多いことがわかりました。

（見えてきた課題）

●地域の担い手、サロンの支え手の育成が求められています。

●地域の居場所づくりについては支える人も場所も関わり続けないと育ちません。育成には継続的な関わりが大切です。

●防災、福祉に関する社会情勢や考え方の変化を住民に伝えていかなければなりません。
（支え合い・助け合い、受け手支え手の区別なく、地域共生社会等）

●住民に「もっと知りたい」「なるほどわかった」「やってみたい」「参加してみたい」と思ってもらえるような講座等の企画、わかりやすい広報を工夫が必要です。

≪社会福祉協議会の取り組みから≫

基本目標　　つながる人づくり
行動目標　　困っていることやつぶやきをひろおう

総務課

□一人暮らし高齢者の生活上の心配ごとや困りごとなど、いずれのサービスにつながらない相談を受け止め、必要な時には適切な支援が受けられるよう関係機関につないでいます。

地域福祉課

□市民生委員児童委員協議会の事務局として、毎年、見守り等の支援を必要とする人達のマップの作成、更新、管理を支援し、地区民児協内で、事務局と情報共有を行っています。
□民生委員のスキルアップと相談技術の向上を図るため研修会等を開催しています。また、相談等があった場合は地域包括支援センターにつないでいるほか、地域の介護事業所の相談員と民生委員の連携による見守りを支援しています。
□各老人クラブが実施する体操サロンや地域のサロンへの支援を行っています。
□福祉サービス利用支援事業において認知症などで金銭管理が難しくなってきた人が安心して暮らせるよう支援しています。

介護福祉課

□おおむね 75 歳以上で一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦、あるいは身体障害者の方々を対象に月 2 回おたっしゃコールで電話訪問しています。見守りや交流促進とともに地域情報を提供し地域コミュニティを育てる活動をしています。民生委員やボランティア等に声かけし、おたっしゃコールの担い手の育成を推進し孤立世帯の減少に努めています。
□福祉有償運送によって公共交通機関が利用困難な身体障害者や要介護者等に自宅から医療機関までの送迎を行い安心して家で暮らすことを支援しています。

児童福祉課

□自立に向けた体験ができる子どもの居場所として、「わ・もっそこどもレストラン」（こども食堂）と学習支援を月 1 回開催しています。
□平成 29 年度から、くらしサポートセンターわじまと連携して、こども食堂を実施し、ボランティアの協力も得ながら、夏休み・冬休み・春休みに学習支援を行っています。
□令和 3 年度からは、放課後の中学生の居場所づくりを行い学習の場を提供しています。
□もんぜん児童館、放課後児童クラブで子育てに関する相談窓口を設置し、保育士や支援員が相談を受け、必要時には行政関係機関につないでいます。
□放課後児童クラブでは、小児科医や管理栄養士を講師として健康づくり講座を行い、学童期からの「こころの健康」「生活習慣病予防」に取り組んでいます。
□児童クラブで、季節の行事体験、じどうクラブまつりで、市内の児童が交流する機会づくりや遊びを通して子どもの居場所づくりを行っています。
□放課後児童クラブでは、障害児も利用しやすいように減免などの体制づくりに取り組んでいます。
□児童クラブでは各クラブ支援員と学校で連携を図り、児童の学習支援、発達支援に取り組んでいます。

くらしサポートセンターわじま

□多様で複合的な課題を抱えた方が制度の狭間に陥らないよう、包括的に相談を受け付けるワンストップ型相談窓口として広報し年間 365 日、年末年始の緊急的な相談にも対応できるよう体制を整えています。

□相談者に寄り添いながら、利用できる制度やサービスの活用・調整を行うなど、各関係機関と連携しながら支援を行っています。

□各関係機関と連携し地域で困っている方の情報があれば訪問を行い支援につなげています。

□市民の専門的な対応を要するものには、弁護士や民生委員との連携による相談体制を整備し、弁護士相談と門前地区における民生委員による心配ごと相談を行っています。

□生活や家計に不安のある人に「就労支援」「家計改善支援」を行っています。その他生活困窮者世帯に対する生活費の貸付（北山たすけあい資金）、自動車購入費の貸付、大学等への進学に係る費用の貸付や、フードバンクによる食料支援を行っています。

□新型コロナウィルス感染症の影響による休業や失業で、生活資金でお悩みの方に対する特例貸付の相談受付を行っています。

（見えてきた課題）

■社会情勢の変化から８０５０問題、ひきこもり問題、ヤングケアラー、児童虐待、生活困窮も問題などこれまでになかった課題に対して相談を待つのではなく、積極的にアウトリーチを行い関係機関と連携して支援が必要な人を早く発見し相談支援につなげていかなければなりません。社協としてふだんの業務の中で問題意識を持って住民の声を拾うことが少なかったのではないかと考えます。住民とふれあう機会を大切にして地域の社会資源を住民と共に見つけていくことを大切にしなければなりません。

■生活、経済面だけでなく教育、就労、医療、介護等、複雑・複合化した課題を抱えた人や世帯に担当部署だけで支援するのではなく、社協内各課横断で連携、協働して支援する体制づくりを強化していかなければなりません。

■自らＳＯＳを発信することの出来ない方を早期に発見・支援を行うために、地域のネットワークの強化図り、住民や関係機関に対して事業の理解・周知を図っていく必要があります。

≪社会福祉協議会の取り組みから≫

基本目標　　つながる人づくり
行動目標　　地域のことを考える人を育てよう

総務課
□社会福祉協議会の情報だけでなく、市民の生活に役立つ情報も提供できるように広報を工夫しています。

地域福祉課
□市老人クラブ連合会研修会を開催し健康づくりや介護予防、また、会員同士の見守りや声かけ、支え合いの地域貢献をすすめています。
□福祉に対する住民理解を深めるために、小・中学校、地区公民館、老人クラブ等、児童クラブ等、様々な機会をとらえ、福祉講座や研修会を開催しています。
□ジュニアボランティア講座を年 2 回、児童福祉講座を年 2～3 回開催しています。
□輪島市ボランティア連絡協議会を中心に、ボランティア活動の把握、研修や交流会等の実施に取り組んでいます。

介護福祉課
□課内で高齢者、障害者の支援について定期的に研修を行い、職員の資質向上に努めています。
□出前講座において介護について理解を深めてもらい､新しい介護方法等の知識を周知啓発しています。

児童福祉課
□こども食堂においてボランティアの協力を得て輪島の郷土料理や魚のさばき方を学ぶ機会を提供しています。
□放課後児童クラブでは、地域防災マップ作成や、避難訓練、避難時の持ち物を確認する等、防災意識の向上に努めています。

くらしサポートセンターわじま
□民生委員研修や出前講座においてくらしサポートセンター事業を周知し、地域で困っている人と相談窓口をつなぐ役割をお願いしています。

災害ボランティアセンター
□災害ボランティアセンター、連絡協議会の設置を行い、市防災訓練の参加のほかに、連絡協議会の各委員が所属する団体に災害時の活動について周知を行っています。

（見えてきた課題）
■地域の担い手の減少により地域の支え手やボランティアが高齢化しています。今後は新しい支え手の掘り起こし育成とともに、住民に支援の「受け手」「支え手」の区別なく、お互い様の気持ちで見守り合う、支え合う、助け合うという関係づくりを周知、啓発して地域のつながりの再構築を強化、推進していかなければなりません。

≪社会福祉協議会の取り組みから≫

基本目標　　つながるしくみづくり
行動目標　　地域の活動と人をつなげよう

総務課

□市内関係機関の代表者に社会福祉協議会の理事、評議員のメンバーとして会議に参加してもらい、地域の中で社会福祉協議会がどのように事業展開していくべきか、方針を協議しています。
□社協だより、ホームページ、フェイスブックで情報発信し社会福祉協議会の活動にご理解とご協力をいただけるよう努めています。

地域福祉課

□市ボランティア連絡協議会、市民生委員児童委員協議会、市老人クラブ連合会、市身体障害者福祉協議会の事務局を担い、各団体の活動、事業の支援に取り組み、各団体の理事会、役員会開催、研修会、スポーツ大会参加等活動を支援しています。
□輪島市ボランティアセンターを設置し、ボランティアから活動についての相談、ボランティアを求める人の相談を受けマッチングするなど、相談体制の充実を図っています。
□輪島市ボランティア連絡協議会加入グループの名簿、活動冊子を毎年作成し、本所や支所に設置するほか、イベント時など市民に向けて周知を行っています。
□点字ボランティア育成講座、要約筆記ボランティア養成講座を随時開催しています。
□生活介護支援サポーター養成講座を開催し地域での活動を呼びかけたり支援しています。
□「ボランティアフェスティバル」を開催しボランティア同士の交流と市民への周知を行っています。
□毎年「赤い羽根共同募金」運動開始時に、ケーブルテレビでの周知やチラシなどで募金を呼びかけ、地域の福祉課題を解決する事業の実施を支援しています。
□社協だよりを年 3 回発行、越後屋版社協だよりを年 9 回発行、ホームページ、フェイスブックでの情報発信を随時行うなど、住民の福祉やボランティア活動に対する理解促進に努めています。

介護福祉課

□最新の介護に関する情報収集のため、関係機関や多職種で連携、協働しています。

児童福祉課

□もんぜん児童館で、毎月子育て交流会や工作理科教室等、行事を企画し、広報を行っています。
□課内の子どもに関する事業にボランティアの参加を積極的に促し、地域の子どもへ関心を持ってもらい、『地域で子育て』の実現に努めています。

くらしサポートセンターわじま

□民生委員児童委員と連携し、地域の中で困窮している人、社会との関わりが希薄になっている人等気になる人の情報収集を行ない支援につなげています。
□月に 2 回、ボランティアと協力しフードドライブの募集・受付を行っています。
広報誌やチラシでフードドライブを周知し、この活動で集まった食糧をこども食堂の材料や生活に困っている人に提供しています。

□高校を訪問し、進路担当教諭に青春チャレンジ支援資金の説明を行っています。費用に悩んでいる進学希望者の家庭に情報提供をしています。
□生活に困りごとを抱えている方の相談を受け、その方が地域で安心して生活していくための社会資源づくりと自立していくための就労支援をハローワークと連携をして行っています。
□社会参加、就労につながるよう就労準備プログラム（パソコン教室、草刈り、ボランティア活動）を行っています。
□市内の事業所を訪問し、「くらしサポートセンターわじま」の説明と周知を行い、企業見学、職場体験の受け入れなどの協力依頼をしています。

（見えてきた課題）
■情報提供、広報は住民にわかりやすい内容、誌面の構成を考える等の工夫が必要です。
■どのような機関とつながればどのような悩みを持っている人とつながることができるか考えて積極的に関係機関とつながり、その後も協働していくことが大切です。
■住民とふれ合う機会、社協サービスの提供の場などいろいろな場面で声を拾い、地域の人や活動を紹介する意識を社協職員が持っていかなければなりません。
■複合的な課題があり、生活リズムが崩れている、社会との関わりに不安を抱えている、就労意欲が低下しているなどの理由ですぐに就労することが困難な人は既存の雇用施策の枠組みでの支援が難しいので今後の対応を関わる人たちで考えていかねばなりません。

≪社会福祉協議会の取り組みから≫

基本目標　　つながるしくみづくり
行動目標　　生きがいを探そう

地域福祉課

□高齢者と障害者の健康づくりのための運動会の開催や、日頃から体操や体力チェックをする機会をふれあいプラザ二勢において提供しています。
□ふれあいプラザ二勢では身体機能低下から要介護になるおそれのある高齢者の自立した生活のための機能訓練も行い高齢者の自立した生活や趣味活動の支援と発表の機会を提供しています。
□ボランティアがいつまでも健康に活動できるよう、介護予防、心の健康についての講座を輪島市ボランティア連絡協議会で行っています。
□障害のある人と住民の交流パーティーの企画、準備支援を行っています。
□地域の高齢者への尊敬や健康への願いを込めた地域主催の敬老会を赤い羽根共同募金の助成を通して支援しています。

介護福祉課

□要支援、要介護状態になっても住み慣れたなじみの住環境でいつまでも住み続けられるよう、ホームヘルパーを派遣し生活支援をしています。
□要介護認定を受けた方々に対し、ケアマネジャーがその人らしい生活ができるようにケアプランを作成し支援するとともに、関係機関とサービス調整を行っています。

児童福祉課

□こども食堂、じどうクラブまつりを障害施設と協働して開催し子どもたちが共生社会について学ぶ機会をつくっています。

くらしサポートセンターわじま

□社会とのつながりが少ない方、ひきこもりの方などの生活の質（Quality of life）の向上を図ることを目的にグループ活動を月１回行っています。
□グループ活動では参加者同士の交流を促し、生活に前向きな思いが起こるように調理実習やレクリエーションを行っています。グループ活動を通して人との関わりの中で役割を持った行動ができ参加者同士、楽しそうに会話する場面が見られています。

（見えてきた課題）
■市内の健康、介護の関係機関と連携し元気な高齢者を増やすための介護予防事業に取り組んでいかなければなりません。
■子ども、高齢者と分けず多世代が交流しお互いを理解し合い支え合う機会づくりをボランティア講座やイベントを通して行うことが大切です。
■くらしサポートセンターわじまのグループ活動では新型コロナウィルス感染予防の為、調理実習を控えたり、時間短縮、軽作業への変更を試みた頃から参加者が減少しています。身体面の理由からの欠席者もいます。活動内容や場所を検討し気軽に参加できる居場所づくりを進めます。

第３章　輪島市の現状

統計データから見えてくる輪島市の現状と課題について

（１）人口と世帯数

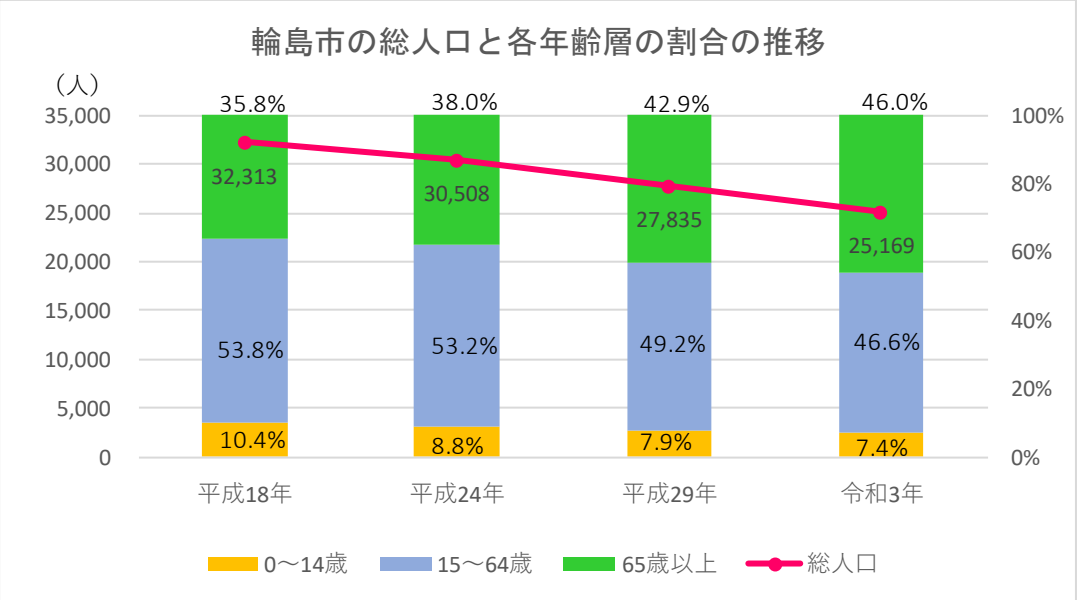
旧輪島市と門前町合併

第1次活動計画開始年度

第2次活動計画開始年度

	平成18年	平成24年	平成29年	令和3年
輪島市人口	32,313	30,508	27,835	25,169
年少人口 （0～14歳）	3,346 10.4%	2,691 8.8%	2,212 7.9%	1,850 7.4%
生産年齢人口 （15～64歳）	17,384 53.8%	16,220 53.2%	13,669 49.2%	11,750 46.6%
高齢者人口 （65歳以上）	11,583 35.8%	11,597 38.0%	11,954 42.9%	11,569 46.0%
※後期高齢者人口 （75歳以上）高齢者の中で占める割合	6,273 54.2%	7,020 60.5%	6,885 57.6%	6,506 56.2%

資料：国勢調査

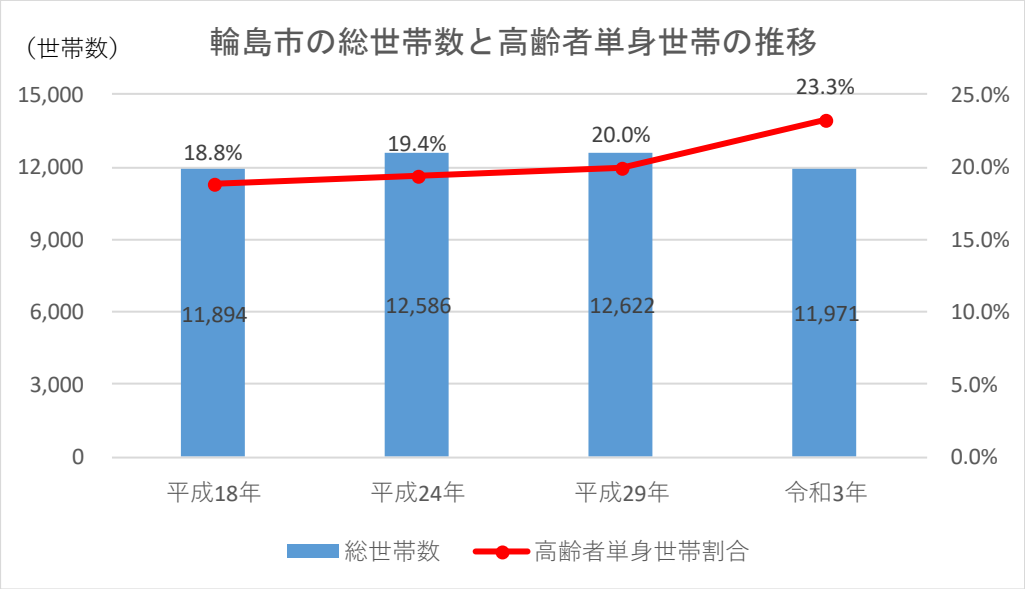


・輪島市の人口は減少傾向にあります。高齢者人口の割合は国や石川県の高齢化率を大幅に上回っていますが、令和３年度から高齢者人口も減少傾向にあります。また、高齢者の半数以上が後期高齢者となっています。

世帯の状況

	平成18年	平成24年	平成29年	令和3年
総世帯数	11,894	12,586	12,622	11,971
65歳以上単身世帯	2,222	2,438	2,528	2,790
（割合）	18.8%	19.4%	20.0%	23.3%

資料：国勢調査



・高齢者の単身世帯の割合が増えている。輪島市の総世帯の4件に1件は高齢者の単身世帯となっています。

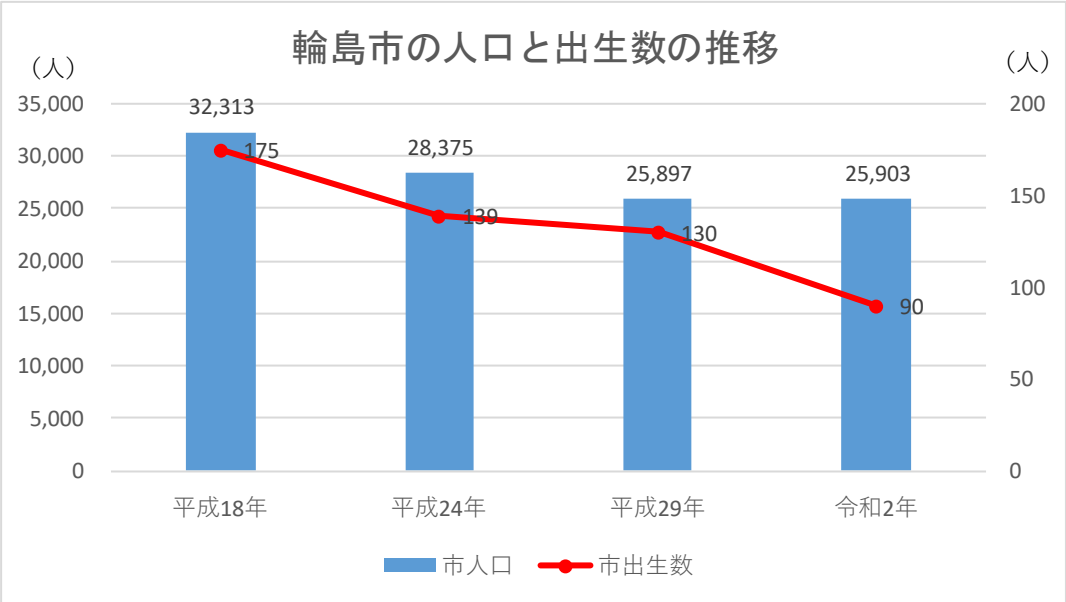
（２）人口と出生数

各年の出生数と出生率

（単位：人）

	平成18年	平成24年	平成29年	令和2年
県人口	1,171,791	1,152,352	1,136,000	1,131,538
県出生数	10,235	9,544	8,696	7,712
市人口	32,313	28,375	25,897	25,903
市出生数	175	139	130	90

資料：健康づくり事業報告書（子育て健康課）

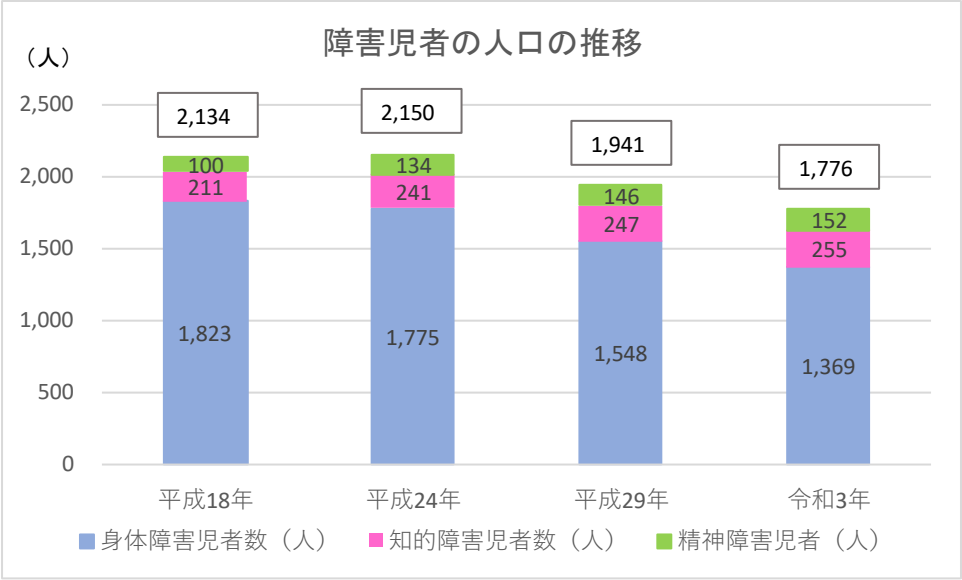


・輪島市の人口は減少傾向ですが、出生数も減少して100人以下となっています。

（３）障害児者の状況

	平成18年	平成24年	平成29年	令和3年
身体障害児者数（人）	1,823	1,775	1,548	1,369
知的障害児者数（人）	211	241	247	255
精神障害児者（人）	100	134	146	152

資料：輪島市統計書（各年4月1日現在）

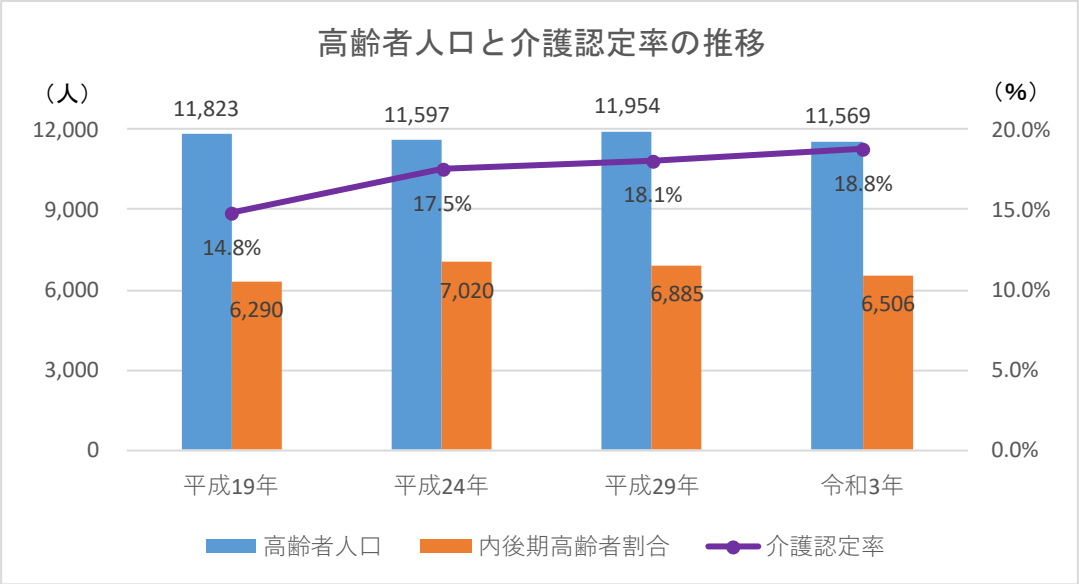


・輪島市の人口が年々減少している中、障害児者の人口も年々減少傾向にあります。
・精神障害児者の人口は増加傾向にあります。
・障害があってもなくても地域で安心して暮らすために互いに理解しあうことが大切です。

（４）介護の状況

	平成18年	平成24年	平成29年	令和3年
高齢者人口（人）	11,823	11,597	11,954	11,569
内後期高齢者人口（人）	6,290	7,020	6,885	6,506
介護認定者（人）	1,750	2,027	2,168	2,175
介護認定率（%）	14.8	17.5	18.1	18.8

資料：輪島市介護保険事業計画



・高齢者人口は今後緩やかに減少していくとみられています。しかし介護認定率は微増ですが少しずつ増加しています。
介護予防の取り組みを地域ぐるみで積極的に取り組む必要性があります。

（５）災害時の支援について

災害時要配慮者登録者数　　（令和3年4月現在）

	人数（人）	登録者（人）	割合（%）
総数	5,417	1,281	23.6
（1）高齢者	3,909	940	24.0
（2）介護認定者	682	134	19.6
（3）障害者	826	137	17.0
（4）その他	―	70	―

資料：要配慮者登録名簿（福祉課）

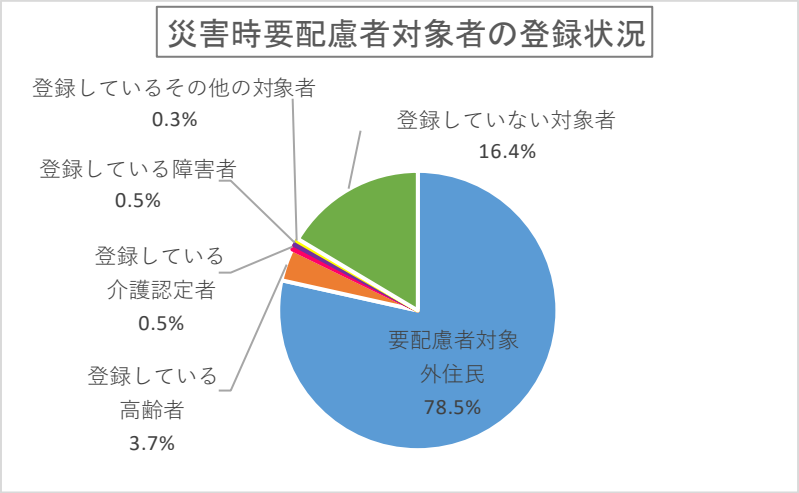
※災害時要配慮者対象者について

（1）75歳以上の単身者及び夫婦のみ世帯者

（2）介護認定者全員

（3）障害者
- 身体障害者手帳1級・2級
- 療育手帳Ａ
- 下肢障害1級～6級
- 視覚障害1級・2級
- 聴覚障害1級～4級
- 精神障害者通院公費

（4）その他
- 日中独居、療育手帳Ｂなど上記に準じた対応が必要な方

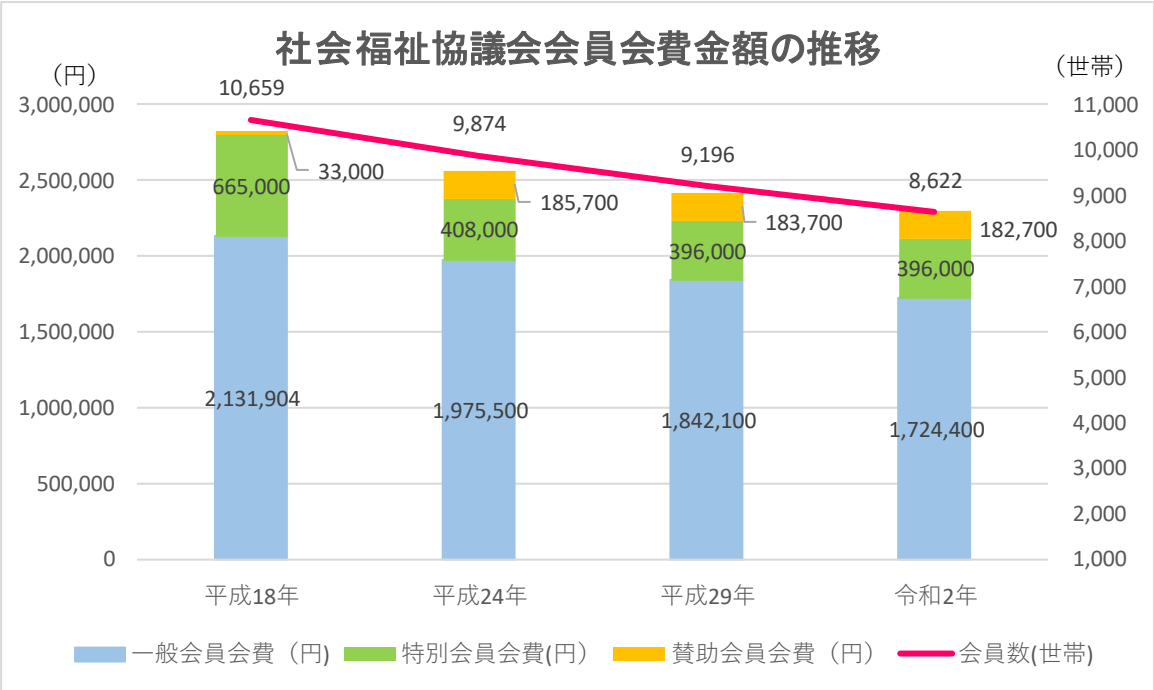


・特別警報や緊急地震速報が非日常ではなくなってきた今日、『防災』は身近な生活課題になってきました。
・避難に配慮が必要と思われる対象者は人口25,169人の中の21.5%ですが、その中で台帳登録をしている人は対象者5,417人中、23.6%です。
・日頃から周りで支援を要する人がいないか気にかけたり、近所で声をかけ合う等の取り組みが大切です。

社会福祉協議会会費（社協会費）の状況

	平成18年	平成24年	平成29年	令和2年
一般会員会費（円）	2,131,904	1,975,500	1,842,100	1,724,400
会員数(世帯)	10,659	9,874	9,196	8,622
特別会員会費(円)	665,000	408,000	396,000	396,000
賛助会員会費（円）	33,000	185,700	183,700	182,700
会費総額（円）	2,840,563	2,569,200	2,430,996	2,311,722

資料：輪島市社会福祉協議会事業報告書



・社協会費は地域福祉活動を推進するうえで、貴重な財源であるとともに、住民参加という大きな意味をもっています。近年、会費額は年々減少傾向にあり、会員制度の普及強化が課題となっています。

第４章　第３次地域福祉活動計画の基本的な考え方

ふだんのくらしをしあわせに

みなさんの何気ないふだんの暮らしを安心できるものにするために
自分のことだけでなく、周りのことも『我が事のように』気にかけたり
『お互い様』と考えて「支え合う、助け合う」ことを第３次地域福祉活動
計画の基本としてすすめていきます。

1　基本理念

地域共生社会の実現をめざして
～お互いさまの気持ちで支え合い、助け合う地域づくり～

輪島市では高齢化が進み、地域の担い手も高齢化しています。

地域に暮らす人、一人一人が地域を構成する大切な存在として年齢、性別、障害のあるなしに関係なく、お互いに支え合い、助け合っていくことがこれからの地域づくりには重要です。

第 3 次活動計画では『地域共生社会の実現をめざして　～お互いさまの気持ちで支え合い助け合う地域づくり～』を基本理念に掲げ、2 つの基本目標と 4 つの行動目標を立て取り組みます。

２　基本目標

基本目標１　**孤独にならない・させない地域づくり　誰も取り残さない地域づくり**

以前は家族や親せき、ご近所の強い結びつきやおつき合いは当たり前のようにあり、地域の中で周りの人が小さな変化に気づいて支えるという関係がありました。

しかし、都市部への人口流出、高齢者だけの世帯の増加、核家族化、共働き世帯の増加等、私達の暮らしや地域のあり方も変化し、今まで家庭や地域の中でしてきたことが行政やサービスで代替えされることが増えてきました。

今般、社会情勢の変化により子育てや介護、貧困、障害など複数の問題を抱えて悩んでいる人が増えています。このような個人、世帯が抱える問題をこれまで分野別に対応していた関係機関が連携して対応することに加えて、地域に暮らす住民同士も互いに気づかい合う中で早く相談窓口につなげることで、「もっと早く知りたかった」「もう少し早く対応していれば」ということがなくなります。皆が安心して暮らすために『助けてほしい時に助けてと言える地域』、『気になった時につながるところがある地域』そういう地域づくりをめざしていきましょう。

基本目標２　**支え合い助け合いができる地域づくり　活気のある地域づくり**

人生１００年時代と言われる今日、今までサービスの受け手とされていた人々も自ら健康づくり、介護予防に地域ぐるみで取り組み、いつまでも元気で自分の得意分野を活かして地域活動に関わっていくことが求められています。

サービスの対象者にあてはまらない制度の狭間にいる人、あまりにも身近なことで制度が対象としていない生活課題を持っている人など地域には課題がたくさんあります。

その課題の解決には地域の『居場所』で「個人の悩み」に寄り添い、周囲の人が「我が事」として課題を共有し「地域の問題」としてとらえていくことが大切です。

また、住民一人一人が仲間とつながりながら地域の中で『役割』を持って動き、お互いさまの心でちょっとした手助けを重ねていくことから始めましょう。皆が暮らしやすい地域を皆で考えていきましょう。

３　行動目標

『孤独にならない、させない地域づくり』『支え合いができる地域づくり』のためにどのようなことに取り組んだらよいのでしょうか。

基本目標１　**孤独にならない・させない地域づくり　誰も取り残さない地域づくり**

行動目標（１）地域の困り事を見逃さない

住民の取り組み

①　一人で悩まないで、周りの人に相談しましょう

②　気軽に親戚や友人と声をかけ合いましょう

③　日頃から隣近所と仲良くつきあいましょう

④　どこに相談窓口があるか注意して広報を見ましょう

・若い世代でも話し相手や相談相手のいない人がいます。
・日頃から相談しやすい関係づくりを身近なところでつくりましょう。

輪島市社会福祉協議会外観

社協だより写真

基本目標１　**孤独にならない・させない地域づくり　誰も取り残さない地域づくり**

行動目標（１）地域の困り事を見逃さない

社協の取り組み

① 安心して相談できる相談窓口を整備し周知を図ります

② 日頃から関係機関と連携協働できる体制をつくります

③ 地域に出向く機会を大切にし、住民の声を聴きます

④ 見守りや支援が必要な人を関係機関と連携して
把握し支援体制の充実を図ります（見守りマップ等）

・どこになにを相談してよいか、悩みを自分から声に出せない人もいます。相談場所がわかるよう広報したり相談しやすいよう個人情報の保護に努めます。
・いろいろな相談に対応できるよう関係機関と連携します。

相談室

子ども食堂

基本目標１　**孤独にならない・させない地域づくり　誰も取り残さない地域づくり**

行動目標（２）地域の支え手を増やし支える

住民の取り組み

① 困っている人がいたら声をかけ、話を聴いてあげましょう

② 困っている人がいたら専門職がいる相談窓口を教えましょう

③ 地域に困り事がないか関心を持って情報を集めましょう

④ 地域のために活動している人のことを知り、地域力の強化に努めましょう

・周りを気にかけている人は多いのですが困っている人へ次の段階の支援がなかなか難しいようです。
・まず、寄り添って話を聴いてあげることから始めてください。
・また、社協や民生委員などの相談窓口があることを教えてあげてください。

赤い羽根共同募金（朝市街頭募金）

ボランティアルームでの活動の様子

基本目標１　**孤独にならない・させない地域づくり　誰も取り残さない地域づくり**

行動目標（２）地域の支え手を増やし支える

社協の取り組み

① 地域に出て地域の支え手を見つけます。また、広報で紹介し活動を呼びかけます

② 障害や子育て、介護者等当事者の声や思いにふれる講座や講演会を開催し支え手の育成を図ります

③ 地域で活動する支え手の活動支援を行います

④ 地域住民と共に活動するため、社協職員のスキルアップを図ります

・現在、地域では活躍している人の高齢化、固定化がみられます。
・住民皆が自分の持っている力を発揮してそれぞれの居場所で活動できるよう､｢参加してみようかな｣と思ってもらえるよう広報などで紹介していきます。

ジュニアボランティア講座

生活･介護支援サポーター養成講座

基本目標２　**支え合い助け合いができる地域づくり　活気のある地域づくり**

行動目標（１）地域の活動に参加し人とつながる

住民の取り組み

① 町内会の集まりや活動があったら参加しましょう

② 広報等から情報収集してボランティアや地域のイベントに参加するよう取り組みましょう

③ 周りの人を誘って地域のイベントや活動に参加しましょう

④ 自分の得意なことを地域の活動に活かしましょう

・身近な町内会の活動をしている人は多いですがもう一歩、範囲を広げて市内各地の行事やイベントや、防災や福祉の活動に取り組む人を増やすことが大切です。
・仲間と一緒に地域でできそうなボランティアに参加したり、防災のことを考えてみませんか。

じどうクラブまつり

ボランティアフェスティバル in 輪島

基本目標２　**支え合い助け合いができる地域づくり　活気のある地域づくり**

行動目標（１）地域の活動に参加し人とつながる

社協の取り組み

① 地域で活動したい人や活動してほしい人の相談支援に努めます

② 住民の活動の場が広がるように関係機関との連携・協力に取り組みます

③ 地域のサロンや行事を企画し参加を呼びかけます

④ 住民に生活や福祉に関する情報をわかりやすく広報するよう取り組みます

・もっと、地域に出て、多くの人の声を聴きます。
・「こうなったらいいな」「こんなことがしたい」という声を広報に活かしたり、関係機関と連携、協働してサロンや行事を企画していきます。

高齢者のいきいき百歳体操

地域の高齢者の交流サロン

基本目標２　**支え合い助け合いができる地域づくり　活気のある地域づくり**

行動目標（２）地域の課題を我が事としてとらえる

住民の取り組み

① 地域で活動するために自らの健康に気をつけましょう

② 地域にある課題を我が事としてとらえ情報収集し解決に向けて取り組みましょう

③ 大雨、大雪、台風、地震などの防災対策に関心を持ち日頃から周りの人と話し合いましょう

④ 地域の集まりに参加し地域の課題を地域で考え話し合う機会をつくりましょう

・高齢でも地域に出て活動している人は健康な人が多いです。若い頃から健康を考えて生活することが大切です。
・元気で自分のできる範囲で周りのことを考えたり、手助けすることは年齢に関係なく『役割』のあるいきいきした暮らしにつながります。

ふれあいプラザ二勢　筋力向上トレーニング

災害ボランティアセンター設置訓練

基本目標２　**支え合い助け合いができる地域づくり　活気のある地域づくり**

行動目標（２）地域の課題を我が事としてとらえる

社協の取り組み

① 同じ目的や悩みを持つ人同士、また多様な世代の交流のための居場所づくりを支援します

② 住民とともに防災や地域づくり、健康づくりに関する活動、事業に取り組みます

③ 地域の課題をそこに暮らす住民と共有し解決に向けた話し合いを支援します

④ 地域の課題を解決するために地域資源の掘り起こしや新規事業を企画します

・悩みをその人だけの悩みに終わらせずに、気軽に話せる場をつくって、我が事として共有します。
・住民の皆さんの暮らす地域でその地域のことを教えていただきながら、『こうなったらいいな』を一緒に話し合っていきます。

ホームヘルパー業務

地域の課題を住民同士で話し合う

４　第3次輪島市地域活動福祉計画（素案）　体系図

基本理念	基本目標	行動目標	住民の取り組み	社協の取り組み
地域共生社会の実現をめざして　～お互いさまの気持ちで支え合い、助け合う地域づくり～	誰も取り残さない地域づくり　孤独にならない・させない地域づくり	地域の困り事を見逃さない	一人で悩まないで、周りの人に相談しましょう。	安心して相談できる相談窓口を整備し周知を図ります。
			気軽に親戚や友人と声をかけ合いましょう。	日頃から関係機関と連携協働できる体制をつくります。
			日頃から隣近所と仲良くつきあいましょう。	地域に出向く機会を大切にし住民の声を聴きます。
			どこに相談窓口があるか注意して広報を見ましょう。	見守りや支援が必要な人を関係機関と連携して把握し支援体制の充実をはかります。（見守りマップ等）
		地域の支え手を増やし支える	困っている人がいたら声をかけ、話を聴いてあげましょう。	地域に出て地域の支え手を見つけます。また、広報で紹介し活動を呼びかけます。
			困っている人がいたら専門職がいる相談窓口を教えましょう。	障害や子育て、介護者等当事者の声や思いにふれる講座や講演会を開催し支え手の育成を図ります。
			地域に困り事がないか関心を持って情報を集めましょう。	地域で活動する支え手の活動支援を行います。
			地域のために活動している人のことを知り、地域力の強化に努めましょう。	地域住民と共に活動するため、社協職員のスキルアップを図ります。
	活気のある地域づくり　支え合い助け合いができる地域づくり	地域の活動に参加し人つながる	町内会の集まりや活動があったら参加しましょう。	地域で活動したい人や活動してほしい人の相談支援に努めます。
			広報等から情報収集してボランティアや地域のイベントに参加するよう取り組みましょう。	住民の活動の場が広がるように関係機関との連携・協力に取り組みます。
			周りの人を誘って地域のイベントや活動に参加しましょう。	地域のサロンや行事を企画し参加を呼びかけます。
			自分の得意なことを地域の活動に活かしましょう。	住民に生活や福祉に関する情報をわかりやすく広報するよう取り組みます。
		地域の課題を我が事としてとらえる	地域で活動するために自らの健康に気をつけましょう。	同じ目的や悩みを持つ人同士、また多様な世代の交流のための居場所づくりを支援します。
			地域にある課題を我が事としてとらえ情報収集し解決に向けて取り組みましょう。	住民とともに防災や地域づくり、健康づくりに関する活動、事業に取り組みます。
			大雨、大雪、台風、地震などの防災対策に関心を持ち日頃から周りの人と話し合いましょう。	地域の課題をそこに暮らす住民と共有し解決に向けた話し合いを支援します。
			地域の集まりに参加し地域の課題を地域で考え話し合う機会をつくりましょう。	地域の課題を解決するために地域資源の掘り起こしや新規事業を企画します。

第3次輪島市地域活動福祉計画（素案）

基本理念	基本目標	行動目標	住民の取り組み	社協の取り組み

※中央の『地域共生社会の実現をめざして』という基本理念に向かっていくために上下の基本目標にある地域づくりをめざします。具体的には４つの行動目標の達成のために住民、社協がタッグを組んでそれぞれの取り組みをひとつひとつ実践することによって基本理念の実現を目指すものです。

一人で悩まないで、周りの人に相談しましょう。	気軽に親戚や友人と声をかけ合いましょう。	日頃から隣近所と仲良くつきあいましょう。	困っている人がいたら声をかけ、話を聴いてあげましょう。	困っている人がいたら専門職がいる相談窓口を教えましょう。	地域に困り事がないか関心を持って情報を集めましょう。
どこに相談窓口があるか注意して広報を見ましょう。	**地域の困り事を見逃さない**	見守りや支援が必要な人を関係機関と連携して把握し支援体制の充実をはかります。（見守りマップ等）	地域のために活動している人のことを知り、地域力の強化に努めましょう。	**地域の支え手を増やし支える**	地域住民と共に活動するため、社協職員のスキルアップを図ります。
安心して相談できる相談窓口を整備し周知を図ります。	日頃から関係機関と連携協働できる体制をつくります。	地域に出向く機会を大切にし住民の声を聴きます。	地域に出て地域の支え手を見つけます。 また、広報で紹介し活動を呼びかけます。	障害や子育て、介護者等当事者の声や思いにふれる講座や講演会を開催し支え手の育成を図ります。	地域で活動する支え手の活動支援を行います。

孤独にならない・させない地域づくり　誰も取り残さない地域づくり

地域共生社会の実現をめざして
～お互いさまの気持ちで支え合い、助け合う地域づくり～

支え合い助け合いができる地域づくり　活気のある地域づくり

町内会の集まりや活動があったら参加しましょう。	広報等から情報収集してボランティアや地域のイベントに参加するよう取り組みましょう。	周りの人を誘って地域のイベントや活動に参加しましょう。	地域で活動するために自らの健康に気をつけましょう。	地域にある課題を我が事としてとらえ情報収集し解決に向けて取り組みましょう。	大雨、大雪、台風、地震などの防災対策に関心を持ち日頃から周りの人と話し合いましょう。
自分の得意なことを地域の活動に活かしましょう。	**地域の活動に参加し人とつながる**	住民に生活や福祉に関する情報をわかりやすく広報するよう取り組みます。	地域の集まりに参加し地域の課題を地域で考え話し合う機会をつくりましょう。	**地域の課題を我が事としてとらえる**	地域の課題を解決するために地域資源の掘り起こしや新規事業を企画します。
地域で活動したい人や活動してほしい人の相談支援に努めます。	住民の活動の場が広がるように関係機関との連携・協力に取り組みます。	地域のサロンや行事を企画し参加を呼びかけます。	同じ目的や悩みを持つ人同士、また多様な世代の交流のための居場所づくりを支援します。	住民とともに防災や地域づくり、健康づくりに関する活動、事業に取り組みます。	地域の課題をそこに暮らす住民と共有し解決に向けた話し合いを支援します。

資 料

輪島市地域福祉活動計画委員会設置要綱

（目的）

第１条　この委員会は、幅広く市民及び関係者の意見や意向を取り入れ、輪島市地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）を策定するため、輪島市地域福祉活動計画委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織）

第２条　この委員会は、学識経験者、住民代表者、社会福祉関係団体代表者、行政機関等で組織し、輪島市社会福祉協議会会長がこれを委嘱する。

２　この委員会の中に、策定部会、策定検討部会、ワーキング部会を設置する。

３　委員の任期は令和３年６月２１日～令和４年３月３１日までとする。ただし、委員が任期の途中で交代した場合は後任者の任期は前任者の残任期間とする。

４　委員会の委員長は輪島市社会福祉協議会会長があたり、副委員長は輪島市社会福祉協議会副会長があたる。

（任務）

第３条　委員は活動計画の進捗状況を把握し、今後の課題について検討、協議を行う。

２　委員長は会務を総括する。

３　副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会議）

第４条　各部会の会議は部会長が招集し、部会長がその議長となる。

２　委員長は必要と認めるときは、関係者の出席を求め、説明及び意見を聞くことができる。

（事務局）

第５条　委員会の事務局は、輪島市社会福祉協議会内に置く。

２　事務局長は輪島市社会福祉協議会事務局長があたり、事務局次長は輪島市社会福祉協議会事務局次長があたる。

（その他）

第６条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、会長が定める。

（附則）

この要綱は令和３年６月２１日から施行する。

輪島市地域福祉活動計画委員会名簿

任期:令和3年6月21日～令和4年3月31日

NO	氏名	現職名	所属部会等
1	上畠　忠雄	輪島市社会福祉協議会会長	委員長
2	坂口　茂	輪島市社会福祉協議会副会長	副委員長
3	若松　勝治	輪島市老人クラブ連合会副会長	策定検討部会
4	谷口　広之	特別養護老人ホームあての木園施設長	策定検討部会
5	丹圃　俊記	輪島市ボランティア連絡協議会会長	策定検討部会長
6	細川　正雄	輪島市民生委員児童委員協議会会長	策定検討部会
7	橋田　宏幸	元輪島市校長会会長	策定検討部会
8	坂口　高雅	社会福祉法人町野福祉会理事	策定検討部会
9	大瀧　和賀子	輪島市民生委員児童委員協議会主任児童部会会長	策定検討部会
10	平野　眞人	輪島市区長会長会会長	策定部会長
11	川渕　新一郎	輪島市身体障害者福祉協議会会長	策定部会
12	古今　幹人	輪島市公民館連合会会長	策定部会
13	米　大二郎	輪島市PTA連合会会長	策定部会
14	吉岡　洋子	輪島市母子父子寡婦福祉協会会長	策定部会
15	今牛　陽子	輪島市老人クラブ連合会常任理事	策定部会
16	山上　幸美	みらい子育てネット石川県地域活動連絡協議会監事	策定部会
17	皆戸　政利	特定非営利活動法人あすなろふたばぱいんの会副理事長	策定部会
18	稲垣　健	一般社団法人輪島青年会議所理事長	策定部会
19	森下　進	特別養護老人ホームあかかみ施設長	策定部会
20	田方　利彦	輪島市健康福祉部部長	策定部会
21	卯木　百恵	輪島市社会福祉協議会　総務課課長	ワーキング部会長
22	小林　由紀子	輪島市社会福祉協議会　総務課係長	ワーキング部会
23	大森　美幸	輪島市社会福祉協議会　地域福祉課係長	ワーキング部会
24	吹田　春香	輪島市社会福祉協議会　地域福祉課主事	ワーキング部会
25	宮下　周子	輪島市社会福祉協議会　介護福祉課課長	ワーキング部会
26	中橋　和恵	輪島市社会福祉協議会　介護福祉課係長	ワーキング部会
27	山崖　正子	輪島市社会福祉協議会　児童福祉課課長	ワーキング部会
28	松本　恭子	輪島市社会福祉協議会　児童福祉課係長	ワーキング部会
29	荒木　正稔	輪島市社会福祉協議会　くらしサポートセンター長	ワーキング部会
30	山岸　寿江	輪島市社会福祉協議会　くらしサポートセンター係長	ワーキング部会

事務局

NO	氏名	現職名等	所属部会等
1	田中　昭二	輪島市社会福祉協議会　事務局長	事務局長
2	大下　百合野	輪島市社会福祉協議会　事務局次長兼地域福祉課長	事務局次長

第 3 次地域福祉活動計画策定の経過

令和 3 年度

月	日	
6 月	18 日	地域福祉活動計画委員会設置要綱起案
	21 日	地域福祉活動計画委員委嘱
7 月	2 日	・ワーキング部会 第 2 次活動計画評価について アンケートの準備（案）内容、対象者について
	30 日	・輪島市地域福祉計画策定委員会 アンケート案決定
8 月	2 日	・ワーキング部会 アンケート開始。社協の取り組み評価まとめ各課依頼
9 月	1 日	・ワーキング部会 アンケート集計中間報告。社協取り組み評価からみえてきた課題
10 月	4 日	・ワーキング部会 アンケート集計中間報告 素案 1 回目（住民、社協の取り組みの結果から）
	25 日	・輪島市地域福祉計画策定委員会 アンケート集計結果報告　骨子案について
11 月	1 日	・ワーキング部会 アンケート集計まとめ結果報告 素案 2 回目（市計画の方向性を受けて見直し案提出）
	29 日	・ワーキング部会 第 1 回策定検討部会提出資料について
12 月	8 日	・第 1 回策定検討部会 素案について
	22 日	・第 1 回策定部会 策定検討部会での意見をもとに見直した素案について
1 月	5 日	・ワーキング部会 策定検討部会、策定部会の意見を受けて修正した点について 概要版（案）について
	11 日	・パブリックコメント募集（～2 月 11 日まで）
2 月		
3 月		

第 3 次輪島市地域福祉活動計画

発行年月　令和　4年　3月
発　　行　社会福祉法人輪島市社会福祉協議会
住　　所　輪島市河井町 13 部 120 番地1
電　　話　(0768)22－2219
ＦＡＸ　(0768)22－9627
ＵＲＬ　www.washakyo.com